

有価証券報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した有価証券報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

NOK株式会社

(E02176)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	14
第2 【事業の状況】	15
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	15
2 【事業等のリスク】	16
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	18
4 【経営上の重要な契約等】	23
5 【研究開発活動】	23
第3 【設備の状況】	25
1 【設備投資等の概要】	25
2 【主要な設備の状況】	25
3 【設備の新設、除却等の計画】	28
第4 【提出会社の状況】	29
1 【株式等の状況】	29
(1) 【株式の総数等】	29
① 【株式の総数】	29
② 【発行済株式】	29
(2) 【新株予約権等の状況】	29
① 【ストックオプション制度の内容】	29
② 【ライツプランの内容】	29
③ 【その他の新株予約権等の状況】	29
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	29
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	30
(5) 【所有者別状況】	30
(6) 【大株主の状況】	31
(7) 【議決権の状況】	32
① 【発行済株式】	32
② 【自己株式等】	32

(8)	【役員・従業員株式所有制度の内容】	32
2	【自己株式の取得等の状況】	34
	【株式の種類等】	34
(1)	【株主総会決議による取得の状況】	34
(2)	【取締役会決議による取得の状況】	34
(3)	【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】	34
(4)	【取得自己株式の処理状況及び保有状況】	34
3	【配当政策】	35
4	【コーポレート・ガバナンスの状況等】	36
(1)	【コーポレート・ガバナンスの概要】	36
(2)	【役員の状況】	38
(3)	【監査の状況】	42
(4)	【役員の報酬等】	44
(5)	【株式の保有状況】	45
第5	【経理の状況】	59
1	【連結財務諸表等】	60
(1)	【連結財務諸表】	60
①	【連結貸借対照表】	60
②	【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】	62
【連結損益計算書】	62	
【連結包括利益計算書】	63	
③	【連結株主資本等変動計算書】	64
④	【連結キャッシュ・フロー計算書】	66
【注記事項】	67	
【セグメント情報】	92	
【関連情報】	93	
【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】	94	
【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】	94	
【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】	95	
【関連当事者情報】	95	
⑤	【連結附属明細表】	97
【社債明細表】	97	
【借入金等明細表】	97	
【資産除去債務明細表】	97	
(2)	【その他】	97
2	【財務諸表等】	98
(1)	【財務諸表】	98

① 【貸借対照表】	98
② 【損益計算書】	100
③ 【株主資本等変動計算書】	101
【注記事項】	103
④ 【附属明細表】	108
【有形固定資産等明細表】	108
【引当金明細表】	108
(2) 【主な資産及び負債の内容】	108
(3) 【その他】	108
第6 【提出会社の株式事務の概要】	109
第7 【提出会社の参考情報】	110
1 【提出会社の親会社等の情報】	110
2 【その他の参考情報】	110
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	111
監査報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月26日
【事業年度】	第113期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
【会社名】	NOK株式会社
【英訳名】	NOK CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 土居 清志
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門1丁目12番15号 （同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	（03）6891-0093
【事務連絡者氏名】	経理部長 尾崎 貴史
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田3丁目13番12号 三田MTビル
【電話番号】	（03）6891-0093
【事務連絡者氏名】	経理部長 尾崎 貴史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	693,689	746,147	713,138	729,341	669,482
経常利益 (百万円)	80,776	53,727	45,709	56,291	31,135
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	46,813	30,053	27,328	35,281	3,419
包括利益 (百万円)	100,919	△13,777	32,695	53,362	△4,933
純資産額 (百万円)	462,754	433,404	455,111	499,894	485,498
総資産額 (百万円)	755,084	696,989	751,797	793,314	785,133
1株当たり純資産額 (円)	2,440.93	2,293.76	2,424.43	2,657.85	2,567.92
1株当たり当期純利益 (円)	271.21	173.97	158.39	204.17	19.77
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	55.9	56.7	55.7	57.9	56.6
自己資本利益率 (%)	12.43	7.35	6.71	8.03	0.76
株価収益率 (倍)	13.35	11.05	16.31	10.12	87.15
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	80,613	88,503	68,038	69,526	63,854
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△43,196	△65,682	△62,035	△58,681	△79,259
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△18,061	△24,008	△7,327	△13,010	6,633
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	102,339	94,032	90,629	89,420	80,761
従業員数 (人)	49,032	46,869	48,181	43,529	42,251
[外、平均臨時雇用者数]	[4,031]	[5,531]	[4,057]	[3,511]	[3,015]

- (注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 1株当たり情報の算定上の基礎となる「期中平均株式数」及び「期末株式数」は、従業員持株E S O P信託口が所有する連結財務諸表提出会社株式を控除しております。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期
決算年月	2015年 3 月	2016年 3 月	2017年 3 月	2018年 3 月	2019年 3 月
売上高 (百万円)	245, 546	239, 329	256, 404	254, 010	256, 203
経常利益 (百万円)	22, 108	25, 043	26, 386	33, 216	28, 466
当期純利益 (百万円)	15, 294	21, 239	19, 813	26, 144	21, 251
資本金 (百万円)	23, 335	23, 335	23, 335	23, 335	23, 335
発行済株式総数 (千株)	173, 138	173, 138	173, 138	173, 138	173, 138
純資産額 (百万円)	170, 534	169, 600	192, 174	220, 385	223, 340
総資産額 (百万円)	332, 429	323, 284	348, 588	369, 125	371, 116
1株当たり純資産額 (円)	986. 12	983. 23	1, 112. 25	1, 273. 68	1, 290. 54
1株当たり配当額 (内 1株当たり中間配当額) (円)	50 (15)	50 (25)	50 (25)	50 (25)	50 (25)
1株当たり当期純利益 (円)	88. 48	122. 88	114. 77	151. 21	122. 80
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	51. 3	52. 5	55. 1	59. 7	60. 2
自己資本利益率 (%)	9. 71	12. 49	10. 95	12. 67	9. 58
株価収益率 (倍)	40. 91	15. 64	22. 51	13. 66	14. 03
配当性向 (%)	56. 5	40. 7	43. 6	33. 1	40. 7
従業員数 (人) [外、平均臨時雇用者数]	3, 051 [406]	3, 085 [424]	3, 143 [431]	3, 248 [427]	3, 419 [410]
株主総利回り (%) (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	217. 8 (130. 7)	120. 0 (116. 5)	162. 3 (133. 7)	134. 5 (154. 9)	117. 1 (147. 1)
最高株価 (円)	3, 970	4, 395	2, 710	2, 900	2, 328
最低株価 (円)	1, 611	1, 637	1, 577	1, 977	1, 439

- (注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 1株当たり情報の算定上の基礎となる「期中平均株式数」及び「期末株式数」は、従業員持株 E S O P 信託口が所有する当社株式を控除しております。
4. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。
5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年 2月16日）等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

- 1939年12月 東京都葛飾区に江戸川精機株式会社を設立。
- 1948年10月 東京オイルシール工業株式会社に社名変更。
- 1951年12月 日本油止工業株式会社と合併し、日本オイルシール工業株式会社に社名変更。
- 1954年6月 本社及び工場を東京都大田区に移転。
- 1960年3月 ドイツ連邦共和国のフロイデンベルグ社と資本提携。
- 1960年8月 神奈川県藤沢市に藤沢工場（現湘南開発センター）を建設。
- 1961年10月 東京証券取引所に上場。
- 1961年12月 本社を東京都中央区に移転。
- 1964年10月 子会社日本シールオール株式会社（現関連会社イーグル工業株式会社）を設立。
- 1966年1月 本社を現在地に移転。
- 1967年8月 静岡県牧之原市に静岡工場（現静岡事業場）を建設。
- 1968年3月 アメリカ合衆国に子会社NOK－U S A., Inc.（現NOK I n c. ）を設立。
- 1968年4月 福島県福島市に福島工場（現福島事業場）を建設。
- 1969年11月 子会社日本メクトロン株式会社を設立。
- 1970年4月 熊本県阿蘇市に熊本工場（現熊本事業場）を建設。
- 1974年12月 静岡県菊川市に東海工場（現東海環境技術開発センター）を建設。
- 1976年12月 子会社NOKクリューバー株式会社を設立。
- 1982年1月 関連会社イーグル工業株式会社が東京証券取引所に上場。
- 1985年7月 日本オイルシール工業株式会社よりNOK株式会社に社名変更。
- 1986年9月 台湾に子会社メクテックCorp. 台湾を設立。
- 1987年8月 福島県二本松市に二本松事業場を建設。
- 1988年10月 タイ王国に子会社タイNOKCo., Ltd. を設立。
- 1989年7月 アメリカ合衆国に当社の子会社NOK I n c. とフロイデンベルグ社のアメリカ合衆国内の子会社との間で、フロイデンベルグ NOK G Pを設立。
- 1994年11月 タイ王国に子会社メクテックマニュファクチャリングCorp. タイLtd. を設立。
- 1995年6月 中華人民共和国に子会社無錫NOKフロイデンベルグCo., Ltd. を設立。
- 1997年8月 中華人民共和国に子会社メクテックマニュファクチャリングCorp. 珠海Ltd. を設立。
- 2002年4月 子会社ユニマテック株式会社を子会社日本メクトロン株式会社より分割設立。
- 2002年8月 中華人民共和国に子会社メクテックマニュファクチャリングCorp. 蘇州Ltd. を設立。
- 2004年1月 鳥取県南部町に鳥取事業場を新設。
- 2004年3月 北辰工業株式会社の全株式を取得し子会社化。
- 2005年3月 日東工業株式会社の株式を取得し子会社化。
- 2005年4月 神奈川県藤沢市に湘南開発センターを建設。
- 2007年4月 子会社北辰工業株式会社と子会社日東工業株式会社が合併し子会社シンジーテック株式会社と社名変更。
- 2010年4月 茨城県北茨城市に北茨城事業場を新設。
- 2013年10月 子会社シンジーテック株式会社を会社分割し、分割承継会社シンジーテック株式会社を設立。
- 2018年12月 茨城県つくば市につくば事業場を新設。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、118社（当社、子会社101社、関連会社16社）より構成され、シール製品、電子部品、事務機用ロール製品等の製造・販売を主な事業としております。

事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付け並びにセグメント情報との関連は、次のとおりであります。

(1) 生産拠点

国内生産においては、シール製品、その他製品を当社、他28社が、電子部品を日本メクトロン(株)、他1社が、事務機用ロール製品をシンジーテック(株)、他2社が担当しております。

海外生産においては、シール製品、その他製品をタイNOK Co.,Ltd.、他15社が、電子部品をメクテックマニユファクチャリングCorp. 珠海Ltd.、他16社が、事務機用ロール製品をシンジーテックベトナムCo.,Ltd.、他4社が担当しております。

(2) 販売拠点

国内販売においては、当社、日本メクトロン(株)他17社が担当しております。

海外販売においては、タイNOK Co.,Ltd.、メクテックCorp. 香港Ltd.、シンジーテック香港Co.Ltd. 他51社が担当しております。

需要先は、国内外の自動車、一般産業機械、電子・精密機器等、多岐の産業にわたっております。

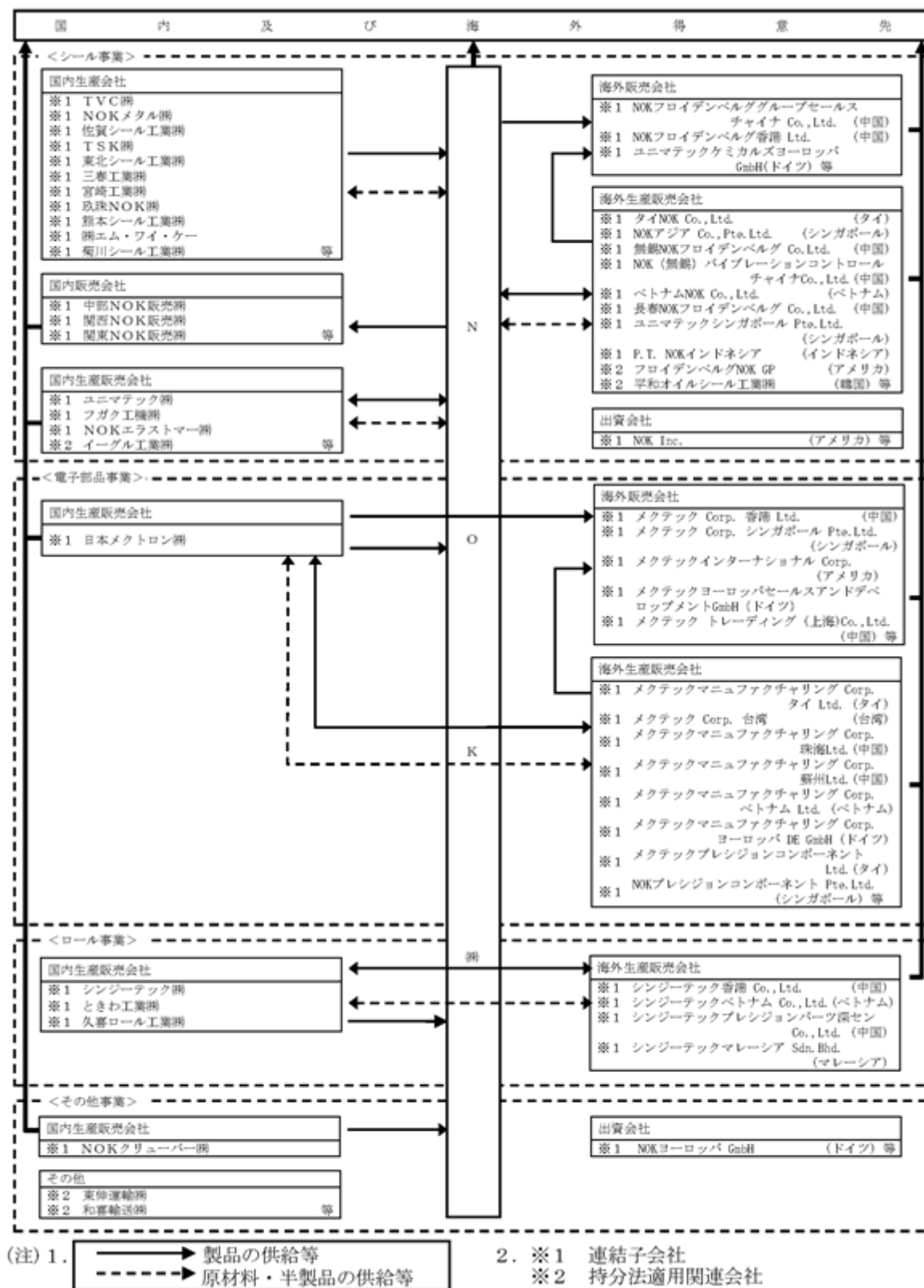
(3) セグメント情報との関連

区分	主要製品	主要な会社
シール事業	オイルシール Oリング 防振ゴム 樹脂加工品 ガスケット 化学合成品 メカニカルシール	当社 タイNOK Co.,Ltd. NOKアジアCo.,Pte.Ltd. 無錫NOKフロイデンベルグCo.,Ltd. 佐賀シール工業(株) ユニマテック(株) NOKエラストマー(株) フガク工機(株) 関西NOK販売(株) NOKフロイデンベルググループセールスチャイナCo.,Ltd. イーグル工業(株) フロイデンベルグNOK G P
電子部品事業	フレキシブルサーキット プレジジョンコンポーネント	当社 日本メクトロン(株) メクテックCorp. 台湾 メクテックマニユファクチャリングCorp. タイLtd. メクテックマニユファクチャリングCorp. 珠海Ltd. メクテックマニユファクチャリングCorp. 蘇州Ltd. メクテックマニユファクチャリングCorp. ベトナムLtd. メクテックプレジジョンコンポーネントタイ Ltd. メクテックCorp. 香港Ltd.
ロール事業	事務機用ロール製品	当社 シンジーテック(株) 久喜ロール工業(株) シンジーテックベトナムCo.,Ltd. シンジーテック香港Co.,Ltd.
その他事業	特殊潤滑剤	当社 NOKクリューバー(株)

(注) 上表の事業内容区分は、セグメント情報における事業区分と同一であります。

事業系統図

当社グループについて図示すると次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			
					役員の兼任等(名)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
日本メクトロン㈱ ※1	東京都港区	百万円 5,000	電子部品の製造・販売	100	4	貸付	製品の一部を当社が販売している。	有
シンジーテック㈱	東京都港区	百万円 350	事務機用ロール製品等の製造・販売	100	5	無	製品を主に当社が販売している。	有
ユニマテック㈱	東京都港区	百万円 400	化学合成品等の製造・販売	100	4	貸付	製品の一部を当社に販売している。	有
NOKクリューパー㈱	東京都港区	百万円 100	特殊潤滑剤の製造・販売	51	4	貸付	製品を当社が販売している。	有
タイNOK Co., Ltd. ※1	タイ チョンブリ	千B 1,200,000	東南アジア地域における関係会社の統轄及びシール製品の製造・販売	100	6	無	製品の一部を当社が販売している。	無
NOK Inc.	アメリカ ネバダ州	千US\$ 7,200	シール製品等の製造・販売を行っているフロイデンベルグNOK GPへの出資	100	2	無	無	無
NOKメタル㈱	宮城県遠田郡涌谷町	百万円 300	シール製品の加工	100	5	無	当社等に製品を販売している。	有
宮崎工業㈱	宮城県加美郡加美町	百万円 20	シール製品の加工	100	4	無	当社製品の加工をしている。	有
仙北工業㈱	宮城県登米市	百万円 20	シール製品の加工	100	4	貸付	当社製品の加工をしている。	有
東北シール工業㈱	福島県耶麻郡猪苗代町	百万円 50	シール製品の加工	74 (20)	4	貸付	当社製品の加工をしている。	有
三春工業㈱	福島県田村郡三春町	百万円 10	シール製品の加工	66.7	4	貸付	当社製品の加工をしている。	有
TSK㈱	福島県岩瀬郡天栄村	百万円 14	シール製品の加工	92.7	5	貸付	当社製品の加工をしている。	有
二本松シール工業㈱	福島県 二本松市	百万円 9	シール製品の加工	100	4	無	当社製品の加工をしている。	有
磯原ウレタン工業㈱	茨城県 北茨城市	百万円 15	合成樹脂製品の成形・加工	100	5	無	当社製品の加工をしている。	有
イツシン工業㈱	長野県北佐久郡立科町	百万円 12	合成樹脂製品の成形・加工	※2 50	5	無	当社製品の加工をしている。	有
㈱MEK-J	茨城県 つくばみらい市	百万円 10	電子部品の加工	100 (100)	無	無	無	無
ときわ工業㈱	福島県本宮市	百万円 16	事務機用ロール製品の製造・販売	100 (100)	1	貸付	無	無

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			
					役員の兼任等(名)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
久喜ロール工業㈱	埼玉県久喜市	百万円 9	事務機用ロール製品の製造	100 (100)	2	貸付	無	無
フガク工機㈱	東京都港区	百万円 150	型・治工具等の製造・販売	50.7 (10) [10]	3	無	製品を主に当社に販売している。	有
関東NOK販売㈱	東京都新宿区	百万円 30	シール製品等の仕入・販売	79.3	4	無	当社等の製品を販売している。	無
菊川シール工業㈱	静岡県菊川市	百万円 100	ガスケット製品の加工	100	4	貸付	当社製品の加工をしている。	有
㈱エム・ワイ・ケー	静岡県牧之原市	百万円 10	ガスケット製品の加工	100	4	貸付	当社製品の加工をしている。	有
中部NOK販売㈱	愛知県名古屋市中川区	百万円 24	シール製品等の仕入・販売	70	3	無	当社等の製品を販売している。	無
関西NOK販売㈱	大阪府大阪市淀川区	百万円 40	シール製品等の仕入・販売	51.1	3	無	当社等の製品を販売している。	有
TVC㈱	鳥取県西伯郡南部町	百万円 100	防振ゴム製品の加工	100	5	貸付	当社製品の加工をしている。	有
NOKエラストマー㈱	福岡県嘉麻市	百万円 100	ゴム原材料の加工	72	5	貸付	当社等に製品を販売している。	有
佐賀シール工業㈱	佐賀県嬉野市	百万円 90	精密ゴム製品の加工	81 (19.1)	5	貸付	当社製品の加工をしている。	有
鳥栖シール工業㈱	佐賀県三養基郡みやき町	百万円 60	精密ゴム製品の加工	100	6	貸付	当社製品の加工をしている。	有
熊本シール工業㈱	熊本県阿蘇市	百万円 20	Oリング製品の加工	100	6	貸付	当社製品の加工をしている。	有
㈱河津工業	熊本県阿蘇市	百万円 20	Oリング製品の加工	70	5	無	当社製品の加工をしている。	有
玖珠NOK㈱	大分県玖珠郡九重町	百万円 15	Oリング製品の加工	72.2	5	貸付	当社製品の加工をしている。	有
クス精密㈱	大分県玖珠郡玖珠町	百万円 30	型・治工具等の加工	100 (100)	無	無	無	無
日南NOK㈱	宮崎県日南市	百万円 20	Oリング製品の加工	100	6	貸付	当社製品の加工をしている。	有
NOKアジア Co., Pte. Ltd.	シンガポール	千S\$ 19,059	シール製品等の製造・販売	100 (0.2)	2	無	当社等の製品を販売している。	無
P. T. NOKインドネシア プカシ	インドネシア プカシ	百万Rp 121,638	シール製品の製造・販売	100 (100)	4	無	原材料の一部を当社より購入している。	無

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			
					役員の兼任等(名)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
P. T. NOKアジアバタム	インドネシア バタム島	百万Rp 42,654	シール製品の加工	100 (100)	1	無	原材料の一部を当社より購入している。	無
NOK (無錫) バイブレーションコントロールチャイナ Co., Ltd. ※1	中国 無錫	千人民元 243,632	防振ゴム製品の製造・販売	100	5	無	製品の一部を当社に販売している。	無
ベトナムNOK Co., Ltd. ※1	ベトナム ビエンホア	百万Dong 429,558	シール製品の製造・販売	100	3	無	製品の一部を当社に販売している。	無
NOKフロイデンベルグシンガポール Pte. Ltd. ※1	シンガポール	千S\$ 80,633	中国・インドの子会社・関連会社への出資	※2 50	2	貸付	無	無
無錫NOKフロイデンベルグ Co., Ltd. ※1	中国 無錫	千人民元 238,071	シール製品の製造・販売	100 (100)	2	無	原材料の一部を当社より購入している。	無
長春NOKフロイデンベルグ Co., Ltd.	中国 長春	千人民元 90,000	シール製品の製造・販売	100 (100)	2	無	原材料の一部を当社より購入している。	無
NOKフロイデンベルグ香港 Ltd.	中国 香港	千HK\$ 2,500	シール製品等の仕入・販売	100 (100)	1	無	当社等の製品を販売している。	無
NOKフロイデンベルググループセールスチャイナ Co., Ltd.	中国 上海	千人民元 36,335	シール製品の仕入・販売	100 (100)	2	無	当社等の製品を販売している。	無
NOKフロイデンベルググループトレーディングチャイナ Co., Ltd.	中国 上海	千人民元 3,310	シール製品の仕入・販売	100 (100)	2	無	当社等の製品を販売している。	無
太倉NOKフロイデンベルグ シーリングプロダクツCo., Ltd.	中国 太倉	千人民元 30,913	シール製品の加工	100 (100)	1	無	原材料の一部を当社より購入している。	無
NOK ウォータートリートメントテクノロジーCo., Ltd.	中国 無錫	千人民元 62,934	機能膜製品の製造・販売	100	4	貸付	製品の一部を当社に販売している。	無
ユニマテックケミカルズチャイナ Co., Ltd.	中国 上海	千人民元 2,634	化学合成品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
ユニマテックシンガポール Pte. Ltd. ※1	シンガポール	千S\$ 36,000	化学合成品等の製造	100 (100)	1	無	無	無
ユニマテックケミカルズシンガポール Pte. Ltd.	シンガポール	百万円 60	化学合成品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
ユニマテックケミカルズアメリカ Inc.	アメリカ ミシガン州	千US\$ 250	化学合成品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
ユニマテックケミカルズヨーロッパ GmbH	ドイツ バインハイム	千Euro 511	化学合成品の仕入・販売	100 (100)	無	無	当社等の製品を販売している。	無
NVCセールスアメリカ Inc.	アメリカ ミシガン州	千US\$ 100	防振ゴム製品の仕入・販売	100	3	無	当社等の製品を販売している。	無
NVCセールスメキシコ S. A. de C. V.	メキシコ サン・ルイス・ポトシ州	千メキシコペソ 18,535	防振ゴム製品の仕入・販売	100	3	無	無	無

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			
					役員の兼任等(名)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
メクテック Corp. 台湾	台湾 高雄	千NT\$ 367,312	電子部品の製造・販売	85 (85)	無	無	無	無
メクテックマニユファクチャリング Corp. タイ Ltd.	タイ アユタヤ	千B 200,000	電子部品の製造・販売	75 (75)	無	無	無	無
メクテックマニユファクチャリング Corp. 珠海 Ltd. ※1	中国 珠海	千人民元 431,678	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテックマニユファクチャリング Corp. 蘇州 Ltd. ※1	中国 蘇州	千人民元 791,236	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテック Corp. 韓国 Ltd.	韓国 ソウル	百万Won 1,800	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
NOKプレジジョンコンポーネントシンガポール Pte.Ltd.	シンガポール	千US\$ 7,198	HDD用製品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
P. T. NOKプレジジョンコンポーネントパタム	インドネシア パタム島	千US\$ 1,000	HDD用製品の加工	100 (100)	無	無	無	無
メクテックプレジジョンコンポーネントタイ Ltd.	タイ アユタヤ	千B 360,000	HDD用製品等の製造・販売	100 (100)	無	無	原材料の一部を当社より購入している。	無
メクテックトレーディング (台湾) Co.,Ltd.	台湾 台北	千NT\$ 30,000	電子部品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテック Corp. シンガポール Pte.Ltd.	シンガポール	千US\$ 105	電子部品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテック Corp. 香港 Ltd. ※3	中国 香港	千HK\$ 1,000	電子部品の仕入・販売	100 (100)	無	無	当社等の製品を販売している。	無
メクテック Corp. 深セン Ltd.	中国 深セン	千人民元 500	電子部品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテックインターナショナル Corp.	アメリカ カリフォルニア州	千US\$ 1,000	電子部品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテックトレーディング (上海) Co.,Ltd.	中国 上海	千人民元 2,482	電子部品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテック ヨーロッパ GmbH	ドイツ バインハイム	千Euro 10,200	欧州地域の子会社への出資	100 (100)	無	無	無	無
メクテックマニユファクチャリング Corp. ヨーロッパ DE GmbH	ドイツ バインハイム	千Euro 50	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテックヨーロッパ セールスアンドデベロップメント GmbH	ドイツ バインハイム	千Euro 50	電子部品の仕入・販売	100 (100)	無	無	無	無

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			
					役員の兼任等(名)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
メクテックマニユファクチャリングCorp. ヨーロッパ CZ s. r. o.	チェコ チェスケー・ブジエヨヴィツェ	千チェコK 11,000	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
エンメック GmbH	ドイツ バインハイム	千Euro 25	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
エンメックハンガリー Kft.	ハンガリー ピーセル	千ハンガリーFt 811,565	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
メクテックマニユファクチャリングCorp. ベトナム Ltd. ※1	ベトナム フンエン	百万Dong 909,500	電子部品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
シンジーテックプレシジョンパーツ深セン Co., Ltd. ※1	中国 深セン	千人民元 178,754	事務機用ロール製品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
シンジーテックプレシジョンパーツ上海 Co., Ltd.	中国 上海	千人民元 17,867	事務機用ロール製品の製造・販売	100 (100)	1	無	無	無
シンジーテック香港 Co., Ltd.	中国 香港	千HK\$ 41,325	事務機用ロール製品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
シンジーテックシンガポール Pte. Ltd.	シンガポール	千US\$ 48	事務機用ロール製品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
シンジーテックマレーシア Sdn. Bhd.	マレーシア シャーアラム	千RM 5,000	事務機用ロール製品の製造・販売	100 (100)	無	無	無	無
シンジーテックベトナム Co., Ltd.	ベトナム ハイフォン	千US\$ 22,300	事務機用ロール製品の製造・販売	100 (100)	1	無	無	無
NOKヨーロッパ GmbH	ドイツ バインハイム	千Euro 100	欧州地域における関係会社の統括	100	1	無	無	無
その他12社								

(2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			
					役員の兼任等(名)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
イーグル工業(株)	東京都港区	百万円 10,490	メカニカルシール等の製造・販売	30.3 (1.3)	4	無	イーグル工業(株)製品の購入並びに当社製品の販売。	有
ESM(株)	東京都港区	百万円 100	半導体用部品等の製造・販売	61.6 (36.6)	1	無	無	無
潮物産(株)	北海道札幌市中央区	百万円 30	シール製品等の仕入・販売	21.3	1	無	当社等の製品を販売している。	無
日昇工業(株)	福島県二本松市	百万円 50	ガasket製品等の加工	35	無	無	当社製品の加工をしている。	有
昭和機器工業(株)	埼玉県比企郡嵐山町	百万円 40	金属加工製品の製造・販売	25	無	無	製品を当社等に販売している。	無
松本産業(株)	静岡県富士市	百万円 10	シール製品等の仕入・販売	20	無	無	当社等の製品を販売している。	無
東輝産業(株)	大阪府八尾市	百万円 70	シール製品等の仕入・販売	25	1	無	当社等の製品を販売している。	無
オタライト(株)	福岡県春日市	百万円 180	樹脂製品の製造・販売	23.1	1	無	製品を当社等に販売している。	有
和喜輸送(株)	東京都品川区	百万円 31	シール製品等の運送・保管	30	2	無	当社製品等を運送・保管している。	無
東伸運輸(株)	愛知県安城市	百万円 60	シール製品等の運送・保管	30	2	無	当社製品等を運送・保管している。	無
フロイデンベルグNOK GP	アメリカ ミシガン州	千US\$ 105,000	シール製品等の製造・販売	40 (40)	2	無	フロイデンベルグNOK GP製品の購入並びに当社製品の販売。	有
フロイデンベルグNOK PVT. Ltd.	インド モハリ	千インドルピー 135,000	シール製品等の製造・販売	100 (100)	2	無	製品を当社等より購入している。	無
平和オイルシール工業(株)	大韓民国 大邱	百万won 30,000	シール製品等の製造・販売	50	6	無	当社の製品を販売している。	無
その他3社								

- (注) 1. ※1は特定子会社に該当しております。
2. ※2持分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。
3. 議決権の所有割合の()内は間接所有割合で内数であり、[]内は緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。
4. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している関係会社
イーグル工業㈱
5. ※3は、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合が10%を超えている連結子会社となります。

メクテック Corp. 香港 Ltd.

主要な損益情報等	(1) 売上高	131,422百万円
	(2) 経常利益	402百万円
	(3) 当期純利益	353百万円
	(4) 純資産額	4,587百万円
	(5) 総資産額	16,871百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）	
シール事業	21,293	[1,907]
電子部品事業	18,784	[1,001]
ロール事業	1,986	[72]
その他事業	188	[35]
合計	42,251	[3,015]

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、当社グループ（当社及び連結子会社）からグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。

2. [] 内は直接雇用の臨時従業員数であり、年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
3,419 [410]	39.9	17.4	7,205,768

セグメントの名称	従業員数（人）	
シール事業	3,337	[405]
電子部品事業	14	[1]
ロール事業	29	[1]
その他事業	39	[3]
合計	3,419	[410]

(注) 1. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

2. 従業員数は就業人員であり、当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。

3. [] 内は直接雇用の臨時従業員数であり、年間の平均人員を外数で記載しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営の基本方針

企業は株主・従業員・社会の三者の共有物である、というのがNOKグループの基本的考え方であります。これに顧客・仕入先・金融機関等を加えた利害関係者、いわゆるステイクホルダーの方々が誇りを持てる企業、それがNOKグループの目指すべき姿と考えております。そのためには、「技術に裏打ちされた独自性のある、かつ社会に有用な商品を世界中で安くつくり適正価格で売る」ことにより高い収益力を持つ強い企業集団をつくりあげることが重要と考え、この考えに基づき事業経営を展開しております。

(2) 経営環境及び対処すべき課題等

今後の当社グループを取り巻く経営環境につきましては、消費税増税が控えてはいるものの、引き上げ幅は小幅であり、駆け込み需要・反動減とも前回と比べて小規模で、影響は軽微にとどまる見込みです。しかし、中国や欧州では景気減速感は強まっており、米中貿易摩擦が深刻化することによる世界経済への波及が懸念され、英国のEU離脱問題も含め、先行き不透明感は高まっております。

シーリング事業では、自動車向けについては、国内は消費税増税による駆け込み需要・反動減があるものの影響は軽微にとどまるとみられます。海外では、北米の需要は堅調、中国は米中貿易摩擦の影響はあるものの、経済対策効果により需要は持ち直していくとみられます。一般産業機械向けについては、国内の建機需要はほぼ横ばい、海外では、中国の建機需要の伸びは鈍化するとみられます。このような中で、国内および海外の競合他社との競争激化が見込まれるため、営業・生産・技術一体となり、拡販の推進、最適地生産による生産体制の効率化に取り組むとともに、品質のさらなる向上についても引き続き取り組んでまいります。

電子部品事業では、高機能スマートフォンやハードディスクドライブ等の台数減少による需要の伸び悩み、季節的な需要変動の拡大等が課題となっております。これらに対応すべく、自動車向け、および新たな用途への拡販を推進するとともに、全社一丸となった変動に強い体質づくりと、品質のさらなる向上について引き続き取り組んでまいります。

ロール事業では、事務機市場の成長鈍化、および価格競争激化による製品価格の下落により、販売の減少が想定されます。これらに対応すべく、営業・技術一体による品質・コスト面での競争力向上、新製品の開発によりさらなる拡販を図るとともに、経営効率をより一層高めて収益力の向上に取り組んでまいります。

このような課題に対処するとともに、自然災害等に備え、BCM（事業継続マネジメント）の構築、ますます拡大する海外事業の適切な管理、品質力のさらなる向上や新商品開発、ならびにこれらを担う人材の育成に力を入れ、将来を見据えて当社グループが持続的に成長発展していけるよう、下記方針に基づき、3カ年計画（2017年度から2019年度まで）に取り組み、全社一丸となって邁進、努力していく所存であります。

スローガン（基本方針）

「持続性ある企業体質の構築」

方針

(1) バランスのとれた顧客構成の構築

－拡販と新商品の開発による拡大均衡を目指して

(2) ダントツ品質の定着

(3) 実効性あるBCMの構築

(4) 人間尊重経営の実践

－活力に溢れた人づくり、職場づくり

2【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財務状況等に影響を及ぼす可能性のある主なリスクとして、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は当連結会計年度末(2019年3月31日)現在において判断したものであります。

(1) 自然災害等について

当社グループは、地震・台風・洪水等の自然災害や火災等の事故、感染症等の発生により、当社グループの生産活動や物流活動に支障をきたす事態に備えて、生産拠点の分散化や安全対策を行い事業継続のためにリスクの最小化に努めております。しかしながら、これらの事態の発生を完全に防止または軽減することができない可能性があります、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 政治経済情勢について

当社グループは、日本、北米、欧州、中国、その他アジア諸国等において事業を展開しております。そのため、当社グループが製品を製造・販売している国や地域の政治情勢や経済状況の変動により、当社グループの業績及び財務状況は影響を受ける可能性があります。

(3) 法的規制等の影響について

当社グループは、事業を展開する各国において様々な法規制の適用を受けております。将来においてこれらの法規制が改正・強化された場合、新たな規制を遵守するために発生する追加コストの負担は当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 訴訟その他の法的手続にかかわるリスクについて

当社グループが、各国で事業を遂行する上で、訴訟や規制当局による措置その他の法的手続の当事者となる可能性があります。これらの法的手続の結果、当社グループに対して金銭的な賦課や事業遂行に関する制約が課された場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 知的財産権侵害の影響について

当社グループは、特許権その他の知的財産権の取得により自社の保有技術を保護すると共に、第三者の知的財産権に対する侵害の予防にも注意を払っております。しかし、国情の相違等から当社グループの知的財産権の保護が十分に得られず販売減少や訴訟費用が発生した場合や、当社グループの製品が意図せず他社の知的財産権を侵害したために販売中止や賠償金支払が必要となった場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 情報流出の影響について

当社グループは、事業を遂行する上で、技術情報や個人情報等の機密情報を有しております。これらの情報の外部流出防止のため社内体制・手続を構築しておりますが、予期せぬ事態により情報が外部に流出した場合、社会的信用の低下や賠償金支払等により、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(7) サイバー攻撃等の影響について

当社グループは、悪意のあるサイバー攻撃等による、操業停止、重要データの喪失、情報漏洩に対して、外部機関等を活用した調査・予防措置を実施しますが、未知の方法のサイバー攻撃により操業に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 環境規制が及ぼす影響について

当社グループは、各拠点における環境関連法令を遵守し、かつ顧客からの環境に関わる要請に対応するために必要な処置を講じておりますが、将来において法令や顧客要請が強化される、環境責任が発生する、事業活動が制約を受ける等の可能性があります。その対応の費用が多額となる場合は、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 製品の品質問題が及ぼす影響について

当社グループは、各生産拠点において世界的に認められた品質管理基準に従って製品を製造しておりますが、予測できない原因による製品の品質不具合の発生を皆無にすることは困難であります。万が一一大規模なリコールや製造物賠償責任につながるような製品の不具合が発生した場合、多大な対応コストや社会的信用の低下により、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 為替変動の影響について

当社グループの当期連結売上高に占める海外売上高比率は約7割であり、各地域における為替動向が、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。このため為替予約等によるリスクヘッジを行っておりますが、必ずしも為替リスクを完全に回避するものではないため、当社グループの業績及び財務状況は為替変動の影響を受ける可能性があります。

(11) 金利変動の影響について

当社グループは、資金需要、調達手段、及び金融情勢を勘案し資金調達をしておりますが、金融情勢の変化により調達金利が変動した場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 株式市場の動向による影響について

国内外の株式市場の動向は、当社が保有する投資有価証券の評価額、及び当社グループの年金資産の運用状況に影響を及ぼします。株式市場が低迷した場合、投資有価証券の評価損が発生する可能性、及び年金資産が目減りし、会社負担が増大する可能性があります。

(13) 原材料の価格変動について

当社グループの製品の主要原材料である鋼板・合成ゴム・銅箔・樹脂フィルム・金等の価格は、需給動向等により変動しております。これら原材料価格の変動が即座に製品価格に反映されるとは限らないため、原材料価格の変動により、当社グループの業績及び財務状況は影響を受ける可能性があります。

(14) 顧客の業績への依存について

当社グループでは、シール製品及び電子部品の製造・販売が事業の大部分を占めており、これらの分野においては国内外の主要な自動車メーカー、建機メーカー、及び電子機器メーカー等を主な得意先としております。これらの顧客企業への売上は、その顧客企業の業績や予期しない契約の変更等、当社グループにて管理できない要因により影響を受ける可能性があります。このような顧客への売上減少により当社グループの業績及び財務状況は影響を受ける可能性があります。

(15) 需要動向の変化による影響について

当社グループの主要製品であるオイルシール等については、主に内燃機関（エンジン）に用いられるものでありますが、近年においては燃料電池自動車、及び電気自動車も市場投入されております。そのため当社グループでは将来の普及に備え、燃料電池に搭載可能な新製品等に関する研究開発も進めております。しかしながら、現時点において将来、燃料電池自動車、及び電気自動車の普及が当社グループの業績及び財務状況に与える影響を見通すことは困難であります。

また、自動車、建機、電子機器製品、及び事務機のコモディティ化の流れの中で、新興国等での現地メーカーの台頭もあり、今後より一層の競争激化とそれに起因する価格下落が生じ、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(16) 他企業との提携について

当社グループは、事業を展開する上で、他社と様々な提携活動を行っておりますが、提携先固有の事情による提携の解消等、当社グループで管理できない要因により業績及び財務状況に影響が及ぶ可能性があります。

とりわけ、当社は1960年よりフロイデンベルグ社（以降同社）との間で、資本及び技術提携を行っており、当社グループの事業展開において、同社（グループ企業含む）は、パートナー企業として重要な位置付けを有しております。

現在同社は、投資会社であるフロイデンベルグ・エス・エーを通じて当社発行済株式の25.1%を保有する筆頭株主であり、1960年の提携以降、同社との関係は継続しております。今後においても、同社との提携関係は安定的に継続していくものと当社グループは認識しておりますが、同社との提携関係又は同社の事業戦略等に変化が生じた場合においては、当社グループの事業に対して影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、西日本豪雨等の自然災害による影響はあったものの、設備投資は底堅く推移しており、景気は緩やかな回復基調を維持しています。海外においては、米国経済は底堅く推移しています。中国は米国との貿易摩擦の影響もあり減速傾向がみられます。

自動車業界は、国内では、軽自動車の需要が好調に推移しています。海外では、北米の需要は堅調に推移していますが、中国の需要は減速傾向がみられます。

電子業界は、下期に入り、携帯電話、ハードディスクドライブ、デジタルカメラの生産台数は減少しました。事務機業界は、事務機市場の成熟化により、需要は横ばいで推移しました。

このような環境の中、当社の当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、785,133百万円となり、前連結会計年度末対比で8,180百万円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が減少したことによるものです。

負債合計は、299,634百万円となり、前連結会計年度末対比6,214百万円の増加となりました。これは、買掛金は減少したものの、短期借入金と長期借入金が増加したこと等によるものです。

純資産は、その他有価証券評価差額金の減少、および配当金の支払いによる利益剰余金の減少等により、前連結会計年度末対比14,395百万円減の485,498百万円となり、自己資本比率は56.6%となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

b. 経営成績

当社の経営成績は以下のとおりです。

シール事業におきましては、自動車向けについては、国内では軽自動車が牽引する形で需要は好調に推移し、また東南アジアでの需要が好調に推移した事等により、販売は増加しました。一般産業機械向けについては、建設機械、工作機、ロボット向けについて底堅く推移した事により、販売は増加しました。

その結果、売上高は341,680百万円（前年同期比1.4%の増収）となりました。営業利益は、人件費・経費、償却費の増加等により36,209百万円（前年同期比11.3%の減益）となりました。

電子部品事業におきましては、自動車向けは好調に推移しましたが、高性能スマートフォンは生産減の影響により販売は減少しました。

その結果、売上高は297,374百万円（前年同期比17.6%の減収）となりました。営業損失は、販売の減少により、14,151百万円（前年同期は2,963百万円の営業利益）となりました。

ロール事業におきましては、金融、繊維機械向けの需要は伸びましたが、事務機向けの需要が生産調整により減少したため、トータルでの販売は減少しました。

その結果、売上高は20,071百万円（前年同期比3.6%の減収）となりました。営業損失は、経費等の削減に努めましたが販売減少の影響が大きく、129百万円（前年同期は49百万円の営業損失）となりました。

特殊潤滑剤等のその他事業におきましては、売上高は10,356百万円（前年同期比1.8%の減収）となりました。営業利益は、品目構成の変化により1,203百万円（前年同期比9.4%の増益）となりました。

営業外収支（収益費用の純額）については、当連結会計年度7,996百万円の収益（前年同期は11,357百万円の収益）となりました。これは主に、持分法による投資利益および為替差益が前連結会計年度より減少したことによるものです。

特別損益の収支（利益損失の純額）については、当連結会計年度18,225百万円の損失（前年同期は3,425百万円の損失）となりました。これは主に、電子部品事業を営む連結子会社である日本メクトロン株式会社の固定資産の減損によるものです。

税金等調整前当期純利益に対する法人税等の負担率は、当連結会計年度52.4%（前連結会計年度25.9%）となりました。

以上の結果、当社グループの業績は、売上高は669,482百万円（前年同期比8.2%の減収）となりました。営業利益は23,140百万円（前年同期比48.5%の減益）、経常利益は31,135百万円（前年同期比44.7%の減益）、親会社株主に帰属する当期純利益は、3,419百万円（前年同期比90.3%の減益）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」）の残高は、前連結会計年度末に比べ8,658百万円減少し80,761百万円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動の結果、得られた資金は、63,854百万円（前年同期比8.2%の減少）となりました。これは主として税金等調整前当期純利益の計上、および非資金項目である減価償却費と減損損失の計上によるものです。

〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

投資活動の結果、使用した資金は、79,259百万円（前年同期比35.1%の減少）となりました。これは主として投資有価証券と有形固定資産の取得によるものです。

〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

財務活動の結果、得られた資金は、6,633百万円（前年同期は13,010百万円の支出）となりました。これは配当金の支払を実施したものの、短期借入れ、および長期借入れによる収入が増加したこと等によるものです。

③ 生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) (百万円)	前年同期比 (%)
シール事業	344,255	97.9
電子部品事業	293,797	76.6
ロール事業	20,253	95.4
その他事業	10,361	93.5
合計	668,668	87.1

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替後の数値によっております。
2. 上記中には商品仕入高を含んでおりますが、当社グループにおいては仕入販売事業の事業規模には金額的重要性はありません。
3. 上記中には消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当社グループは、主として得意先より生産計画の内示を受け、それに基づく見込み生産を行っているため記載しておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) (百万円)	前年同期比 (%)
シール事業	341,680	101.4
電子部品事業	297,374	82.4
ロール事業	20,071	96.4
その他事業	10,356	98.2
合計	669,482	91.8

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
Apple Inc.	146,720	20.1	99,752	14.9

3. 上記中には消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。

その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者はこれらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的・保守的に判断しておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1(1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

1) 財政状態

当連結会計年度の財政状態の分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要① 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりです。

2) 経営成績

当連結会計年度の経営成績の分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要① 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりです。

3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要② キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりです。

b. 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

シール事業

「事業の拡大」、「競争力ある生産体制の構築」、「グローバル事業の強化」、「ダントツ品質の追求」を柱に、持続性ある企業体質の構築を図ることが重要と考えております。

「事業の拡大」につきましては現有製品のシェアアップ、新商品開発力強化とともに成長を続ける海外市場での拡販を図り、「競争力ある生産体制の構築」につきましては生産子会社の体制の見直し、「グローバル事

業の強化」につきましては変化する環境への迅速な対応を行い、「ダントツ品質の追求」につきましては品質・技術の教育・伝承の充実及びIoTの活用による品質向上を検討してまいります。

電子部品事業

「拡販による顧客ベースの多角化」、「変化に対応できる収益体質の強化」、「ダントツ品質の実現」により、変化を乗り越える構造改革の断行を進めてまいります。

「拡販による顧客ベースの多角化」につきましては自動車向けビジネス拡大の加速並びに提案力の強化により新規顧客・新用途向けビジネスを拡大し、「変化に対応できる収益体質の強化」につきましては人に頼らないものづくりの実現、聖域なき総原価低減活動の推進、業務の生産性向上による間接部門のスリム化、フリーキャッシュフローの増加による財務体質の改善を進め、「ダントツ品質の実現」につきましては人に頼らないものづくりによる品質の安定化、自動車要求品質への対応を行ってまいります。

ロール事業

業績回復を図るために、積年の課題である「拡販の推進」を最優先課題とし、並行して「BEPの改善による利益体質の強化」並びに「抜本的な品質改善」を強力に推進してまいります。

「拡販の推進」につきましては新仕様開発による受注拡大、立上品質の確保、価格競争力の向上を図り、「BEPの改善による利益体質の強化」につきましては生産性向上・品質改善・内製化に加えて、生産管理システムの再構築と活用、業務の効率化を推進し、「抜本的な品質改善」につきましては徹底した現場管理による品質の安定化と良品・量産条件の再検討による品質の改善を推進いたします。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因としては、「第2事業の状況 2. 事業等のリスク」で述べましたとおり以下が主なものとなります。

- a. 自然災害等
- b. 政治経済情勢
- c. 法的規制等の影響
- d. 訴訟その他の法的手続にかかわるリスク
- e. 知的財産権侵害の影響
- f. 情報流出の影響
- g. サイバー攻撃等の影響
- h. 環境規制が及ぼす影響
- i. 製品の品質問題が及ぼす影響
- j. 為替変動の影響
- k. 金利変動の影響
- l. 株式市場の動向による影響
- m. 原材料の価格変動
- n. 顧客の業績への依存
- o. 需要動向の変化による影響
- p. 他企業との提携

当社グループでは自然災害等に備え、BCM（事業継続マネジメント）の構築、ますます拡大する海外事業の適切な管理、品質力の更なる向上や新商品開発、並びにこれらを担う人材の育成に力を入れ、将来を見据えて当社グループが持続的に成長発展していけるよう、3カ年計画（2017年度から2019年度まで）を作成し、取り組んでおります。

また、経営成績に影響する各種リスクを回避できるよう、引き続き経営者として努力してまいりますとともに、企業目的である「全てのステークホルダーに利益と誇りをもたらす」、そのための事業方針である「技術に裏打ちされた独自性ある、かつ社会にとって有用な商品を世界中で安くつくり適正価格で売る」の具現化に努めてまいります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性について

①キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要② キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりです。

②契約債務

2019年3月31日現在の契約債務の概要は以下のとおりであります。

	年度別要支払額（百万円）				
契約債務	合計	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超
短期借入金	66,972	66,972	—	—	—
長期借入金	19,563	—	9,314	8,713	1,535
リース債務	236	67	115	44	9

③財務政策

当社グループは、運転資金及び設備資金につきましては、内部資金または借入により資金調達することとしております。このうち、借入による資金調達に関しましては、運転資金については短期借入金で、生産設備などの長期資金は固定金利の長期借入金で調達しております。

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

2018年度の達成・進捗状況は以下のとおりです。

（単位：百万円）

指標	2018年度（計画）	2018年度（実績）	2018年度（計画比）
売上高	755,000	669,482	△85,517（△11.3%）
営業利益	49,000	23,140	△25,859（△52.8%）

セグメント別の達成・進捗状況は以下のとおりです。

シール事業

自動車向けの販売については、国内ではある程度堅調に推移したものの、米国との貿易摩擦に端を発する中国市場の減速影響を受け、計画対比では減収となりました。

一般産業機械向けについては、建設機械、工作機、ロボット向けについて市場はいずれも底堅く推移したものの、顧客構成の変化等から計画対比では微減となりました。

一方、生産活動においては、昨年度より不足していた人員の手配や設備能力の拡充を図ったため固定費が増加傾向にあることに加え、その過程で品質や教育に追加のコストが発生したことから、収益面では苦戦を強いられることとなりました。

また拡販・増産や技術力強化のための大型投資も当年度中に稼働を開始したことから償却費が増加しており、これらの効果を早期に実現することが今後の課題となります。

以上の結果、売上高は341,680百万円（2018年度計画比2.1%の減収）となり、営業利益は36,209百万円（2018年度計画比13.8%の減益）となりました。

電子部品事業

高性能スマートフォン向けの需要が減少し、全体として販売は計画対比大幅に減少しました。販売減の影響が大きく損益も大幅に悪化しました。

以上の結果、売上高は297,374百万円（2018年度計画比20.7%の減収）となり、営業損失は14,151百万円（2018年度計画は7,000百万円の営業利益）となりました。

ロール事業

売上高は市場在庫調整等の影響で第4四半期に減速しましたが、年度としては当初計画に対して微増収で終了しました。営業利益は経費と投資の抑制に加えて収益体質の強化に努めたことと、品目構成の良化もあり当初計画に対しては大幅な良化となりましたが黒字化までには至らず、二期連続の赤字で終了しました。

以上の結果、売上高は20,071百万円（2018年度計画比0.4%の増収）となり、営業損失は129百万円（2018年度計画は800百万円の営業損失）となりました。

4【経営上の重要な契約等】

当社グループ（当社及び連結子会社）が締結している重要な契約は次のとおりであります。

提出会社

①技術提携契約

相手先	国名	内容	契約日
フロイデンベルグ社	ドイツ連邦共和国	オイルシール、Ｏリング等のシール製品及びそれに関連する技術の共同開発	2017年12月21日

②合弁契約

相手先	国名	内容	合弁会社名	契約日
フロイデンベルグ社	ドイツ連邦共和国	米国子会社(NOK Inc.)とフロイデンベルグ社の米国子会社によるオイルシール、Ｏリング等のシール製品並びに関連製品事業の合弁	フロイデンベルグ NOK GP	1989年3月23日

5【研究開発活動】

当社グループは、当社技術本部及び連結子会社の各技術部門を中心に、相互連携を図りながら、担当分野に係る新技術・新製品等の開発活動を進めております。当連結会計年度の研究開発費の総額は、10,459百万円となっております。セグメント別の研究開発活動の状況は次のとおりであります。

(1) シール事業

「環境」、「安全」及び「IT化対応」を重点として、継続的に技術・製品開発を進めております。環境関連では、低摩擦損失による省エネルギー効果に寄与する製品、電気自動車（EV）・ハイブリッド（HEV）・燃料電池自動車（FCV）に対応するクリーンな製品の開発を進めております。

安全やIT関連では、自動車制動関連の製品や電子部品との複合等による高付加価値製品の開発に取り組んでおります。

オイルシールにおいては、Le-μ's（商標）ブランドの低摩擦技術群による省エネルギーへの貢献と、耐ダスト性の向上による過酷環境への対応とを両立する製品の市場投入も始めております。また、更なる低摩擦化を目指したコーティングなどの開発を進めており、今後もLe-μ'sブランドのラインナップの拡充を図っていきます。自動車の技術動向への対応として、E-mobility用シールの開発も進めております。

Ｏリングにおいては、環境対応エンジンに対する高圧用シール、組立性を向上させるコーティング、燃料電池関連シールを市場投入する一方で、E-mobility関連シールや低燃費に貢献できる各種機能を向上させるシールの開発を進めております。

自動車用自動変速機の回転軸用シールリングにおいては、しゅう動面にシール媒体である油を提供する形状を付与することにより、従来品対比で最大、約70～80%の低トルク化が可能な市場投入をしております。

新商品関連では、EV/HEV/FCVに代表されるエコカーのニーズに対し、従来のシール製品群に加え、電子機器や電動ユニット向けにFPC一体シール部品、および放熱をサポートする熱伝導性ゴムを開発しております。さらに燃料電池の中核を成すスタック向けに低反力・省スペースのシール部品を開発し、一部顧客向けに量産を開始しております。

また、自動運転に代表される先進運転支援システム（ADAS）が注目を集めております。それには運転者の状態を判断する「ドライバモニタリング」も必要とされており、我々の開発した生体信号を測定できるゴム電極は心電、筋電位、脳波等のモニタリングが可能であり、運転者の疲労や眠気の検知への利用が期待されています。

自動車以外の分野においては、新たな分野・市場への参入に向け、ゴムや樹脂のモールド技術を用いて耐候性や耐衝撃性を向上させたICタグ、医療・バイオ分野に向けた機能性ゴム部品など、より付加価値の高い製品開発を進めております。

化学合成品関係では、環境負荷の低減に対応した素材の開発や、フッ素系機能性化合物製品の開発とそれらの新規製造法を検討するとともに、生産プロセス面からも資源・省エネルギーや環境に配慮した商品開発を推進しております。

なお、当事業に係る研究開発費は7,828百万円であります。

(2) 電子部品事業

スマートフォン／タブレットなどの小型携帯電子機器向けをはじめ、今後の成長電子市場である車載向けや、医療・ヘルスケア、ロボット等の分野に向けたフレキシブル配線板（FPC）のプロセス／材料／部品実装開発及びFPCの新商品開発を推進しております。開発概要は、FPCの高信頼性、低伝送損失化、高精細／高機能化、モジュール化を実現するコア技術の確立であります。

車載向けには、急速に進展するEV化に伴いFPCの高信頼性接続技術化を図り、バッテリー需要の高まりと安全性に対応した電圧監視用FPCやインバーター対応FPCを開発推進しております。

小型携帯電子機器に関しては、5G移動通信システム向けとして、信号の高周波化・高速化、データの大容量化に対応し、ベース樹脂にLCP（液晶ポリマー）フィルムを適用した高速伝送用FPCの開発、および開発品の顧客への試作対応を進めております。

また、5Gの特徴である信号伝送の低遅延化によって、小型携帯電子機器の他、遠隔操作を企図したロボット分野へのFPCの応用も対応しております。特にVR／AR技術へのFPCの応用として、触覚グローブの開発を推進しております。グローブに組み込んだFPC端子部から発生する電気刺激により、遠隔操作によるロボットの指先でセンシングした感触が伝わるものです。

また、伸縮性のある基材と配線により、肌への密着に関し違和感のない透湿性、装着感を備え、脳波等制度の高いバイタルデータセンシング機能を持つストレッチャブルFPCの開発を推進し、顧客向けの試作及び量産対応を開始しております。今後更なる研究機関、企業との共同研究を継続し高機能化を推進致します。

配線の高密度化に対応するために、サブトラクティブ工法による更なる配線の高精細化に取り組むと共に、超微細配線の形成に向けたセミアディティブ工法の開発を推進し、顧客試作に向けたプロセス構築を進めております。また、配線微細化と同時に必要となるビアの小径化に対し、レーザ加工技術において、新技術の適用および量産適用の推進、更なる小径化対応を進めております。

なお、当事業に係る研究開発費は、1,855百万円であります。

(3) ロール事業

事務機業界では、最近の市場動向として中国・ASEAN地区への生産二極化の進展、また低価格分野向けを中心にローカル部品メーカーの参入などが顕著な動きとなってきました。

一方、事務機の機能トレンドである高速化、高画質化を目的として新タイプトナーへの変更等の開発が進められており、使用される部品についても従来仕様以上の機能を要求されております。弊社は引続き顧客要求に合わせた開発推進を行ってまいります。併せて、品質向上、開発工期の短縮と共に安定した生産体制の構築に努めてまいります。

なお、当事業に係る研究開発費は601百万円であります。

(4) その他事業

潤滑剤関係では、E-mobility化や物質法規制の厳格化に対応すべく、市場要求や物質法規制を先取りした製品の開発を進めています。また、安全性や環境対応性を配慮しながら、電食防止・腐食防止などの付加価値を向上させることを目的とした新素材・新技術の研究開発に注力しています。

なお、当事業に係る研究開発費は172百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度において、海外生産能力の拡充を進めると共に、より効率的な国内生産体制の整備を実施いたしました。また、生産の省力化・合理化投資も継続して実施すると共に、品質向上に資する投資にも注力しております。当連結会計年度においては、このような施策を中心に、総額70,118百万円の設備投資額となりました。

シール事業においては、国内では当社を中心に、海外では無錫NOKフロイデンベルグ Co.,Ltd.、タイNOK Co.,Ltd.を中心に、総額41,482百万円の設備投資を実施いたしました。

電子部品事業においては、国内では日本メクトロン(株)を中心に、海外ではメクテックマニュファクチャリング Corp. 珠海Ltd.、メクテックマニュファクチャリングCorp. ベトナムLtd.を中心に、総額27,517百万円の設備投資を実施いたしました。

ロール事業においては、788百万円、その他事業においては、331百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、上記金額には、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器 具及び備 品	土地 (面積千 ㎡)	リース 資産	建設 仮勘定	合計	
湘南開発センター (神奈川県藤沢市)	シール事業	研究開発設備	1,929	803	138	129 (74) <55>	—	65	3,066	350 [42]
東海環境開発技術セン ター (静岡県菊川市)	シール事業	機能膜製造設 備	1,117	862	228	114 (32)	—	331	2,653	155 [21]
福島事業場 (福島県福島市他)	シール事業	オイルシール 製造設備	8,700	9,796	1,002	422 (108)	14	6,207	26,142	826 [100]
二本松事業場 (福島県二本松市)	シール事業	工業用ゴム 製造設備	343	1,821	137	1,151 (165)	—	2,473	5,926	168 [28]
北茨城事業場 (茨城県北茨城市)	シール事業	樹脂加工品等 製造設備	4,875	2,044	541	970 (79)	—	2,708	11,139	336 [25]
静岡事業場 (静岡県牧之原市)	シール事業	工業用ゴム 製造設備	1,111	2,010	662	62 (39) <4>	—	242	4,089	172 [9]
鳥取事業場 (鳥取県西伯郡 南部町)	シール事業	防振ゴム製造 設備	3,077	5,050	681	114 (28)	—	499	9,422	132 [7]
熊本事業場 (熊本県阿蘇市他)	シール事業	工業用ゴム・ Oリング製造 設備	1,869	5,207	1,729	494 (164)	—	547	9,849	420 [91]
つくば事業場 (茨城県つくば市)	シール事業	工業用ゴム 製造設備	744	89	25	570 (42) <2>	—	463	1,892	16 —

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器 具及び備 品	土地 (面積 千㎡)	リース 資産	建設 仮勘定	合計	
日本メクトロン (株)	牛久事業場 (茨城県牛久市)	電子部品 事業	フレキシ ブル基板 等製造設 備	984	668	61	346 (142)	8	361	2,431	845 [72]
	鹿島工場 (茨城県神栖市)	電子部品 事業	フレキシ ブル基板 製造設備	1,954	100	42	745 (35)	—	13	2,856	183 [6]
ユニマテック(株)	北茨城工場 (茨城県北茨城 市)	シール 事業	化学合成 品等製造 設備	2,812	4,560	528	143 (71)	—	348	8,393	327 [48]
シンジーテック (株)	横須賀事業場 (神奈川県横須賀 市)	ロール 事業	事務機用 ロール製 品製造設 備	994	487	106	492 (21)	7	134	2,224	68 [5]
フガク工機(株)	本社工場 (静岡県菊川 市)	シール 事業	型等製造 設備	629	1,529	109	615 (50)	—	—	2,884	334 [63]

(3) 在外子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)							従業員 数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器 具及び備 品	土地 (面積 千㎡)	リース 資産	建設 仮勘定	合計	
タイNOK Co., Ltd.	本社工場他 (タイ チョンブ リ)	シール事 業	オイルシ ール製品 等製造設 備	6,219	2,297	2,504	3,505 (336)	—	304	14,831	4,158 [一]
P. T. NOKインド ネシア	ブカシ工場 (インドネシア ブカシ)	シール事 業	オイルシ ール製品 等製造設 備	608	1,103	345	139 (40) [40]	4	60	2,261	931 [658]
NOK (無錫) パ イブレーション コントロールチ ャイナCo., Ltd.	無錫工場 (中国 無錫)	シール事 業	防振ゴム 製造設備	2,435	3,372	327	— [63]	—	258	6,394	1,049 [4]
無錫NOKフロイ デンベルグ Co., Ltd.	本社工場 (中国 無錫)	シール事 業	オイルシ ール製品 等製造設 備	4,342	5,681	1,057	— [137]	—	581	11,662	2,020 [一]
メクテックマニ ュファクチャー リングCorp. 珠海 Ltd.	本社工場他 (中国 珠海)	電子部品 事業	フレキシ ブル基板 製造設備	3,989	17,000	2,565	— [168]	—	553	24,109	4,662 [一]
メクテック Corp. 台湾	本社工場他 (台湾 高雄他)	電子部品 事業	フレキシ ブル基板 製造設備	4,245	5,777	687	2,369 (56) [6] <2>	—	448	13,527	3,057 [520]
メクテックマニ ュファクチャー リングCorp. タイ Ltd.	本社工場 (タイ アユタ ヤ)	電子部品 事業	フレキシ ブル基板 製造設備	4,254	9,372	200	690 (56)	—	414	14,932	4,164 [一]
メクテックマニ ュファクチャー リングCorp. 蘇州 Ltd.	本社工場 (中国 蘇州)	電子部品 事業	フレキシ ブル基板 製造設備	8,017	7,696	2,073	— [170]	—	633	18,420	2,135 [一]
メクテックブレ ンションコンポ ーネントタイ Ltd.	本社工場他 (タイ アユタヤ 他)	電子部品 事業	HDD用製 品等製造 設備	1,246	915	73	463 (57) [22]	—	84	2,784	1,004 [56]
メクテックマニ ュファクチャー リングCorp. ベト ナムLtd.	本社工場 (ベトナム フンイエン)	電子部品 事業	フレキシ ブル基板 製造設備	3,799	5,620	113	— [102]	—	1,664	11,197	683 [一]
シンジーテック ベトナム Co., Ltd.	本社工場他 (ベトナム ハイフォン)	ロール事 業	ロール製 品製造設 備	894	704	3	— [21]	—	—	1,602	892 [9]

(注) 1. 上記設備には、福利厚生施設を含んでおります。

2. 上記中には、消費税等を含めておりません。

3. 土地の欄の〈 〉は賃貸中の土地の面積であり、[]は賃借中の土地の面積であります。

4. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、顧客動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。投資計画は原則的に連結会社各社が個別に策定していますが、必要に応じ、当社を中心に、グループ間の調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修の計画は次のとおりであります。

重要な設備の新設・改修

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了 予定年月	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
当社 二本松事業場	福島県二本松市 宮戸	シール事業	オイルシール 製造設備	9,563	4,119	自己資金	2018年4月	2021年3月
当社 二本松事業場	福島県二本松市 宮戸	シール事業	ガasket 製造設備	5,110	1,708	自己資金	2018年5月	2020年4月

(注) 上記中には、消費税等を含めておりません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	600,000,000
計	600,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数（株） （2019年3月31日）	提出日現在発行数（株） （2019年6月26日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	173,138,537	173,138,537	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	173,138,537	173,138,537	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
2004年2月25日 (※1)	4,000,000	172,538,537	6,456	22,367	6,455	19,428
2004年3月18日 (※2)	600,000	173,138,537	968	23,335	968	20,397

(注) ※1. 有償 一般募集 : 発行株式数4,000,000株、発行価額3,227.95円、資本組入額1,614円

※2. 有償 第三者割当 : 発行株式数 600,000株、発行価額3,227.95円、資本組入額1,614円

割当先 大和証券エスエムビーシー株式会社 (現商号 : 大和証券株式会社)

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況（１単元の株式数100株）								単元未満 株式の状 況（株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	－	52	33	174	274	6	8,968	9,507	－
所有株式数 （単元）	－	513,181	19,653	371,854	708,740	44	117,623	1,731,095	29,037
所有株式数の 割合（％）	－	29.64	1.14	21.48	40.94	0.00	6.79	100	－

(注) 自己株式79,050株は「個人その他」に790単元及び「単元未満株式の状況」に50株、それぞれ含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
フロイデンベルグ・エス・エー (常任代理人 鶴 正登) (常任代理人 株式会社みずほ銀 行決済営業部)	Hoehnerweg 2-4 D-69469 Weinheim Germany (東京都目黒区) (東京都港区港南2-15-1)	43,457 (24,904) (3,681)	25.11 (14.39) (2.13)
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	9,384	5.42
正和地所株式会社	東京都港区大門1-12-15	8,773	5.07
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	東京都千代田区有楽町1-13-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	8,000	4.62
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1	6,809	3.93
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	6,590	3.81
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	4,270	2.47
損害保険ジャパン日本興亜株式 会社	東京都新宿区西新宿1-26-1	3,036	1.75
株式会社SMBC信託銀行(株式会 社三井住友銀行退職給付信託口)	東京都港区西新橋1-3-1	3,000	1.73
ORBIS SICAV (常任代理人 シティバンク、エ ヌ・エイ東京支店)	31, Z. A. BOURMICH, L-8070 BERTRANGE, LUXEMBOURG (東京都新宿区6-27-30)	2,882	1.67
計	—	96,204	55.59

(注) 所有株式数及び所有株式数の割合における()内は、それぞれの常任代理人における内数を表示しております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 79,000 (相互保有株式) 普通株式 272,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 172,758,500	1,727,585	—
単元未満株式	普通株式 29,037	—	—
発行済株式総数	173,138,537	—	—
総株主の議決権	—	1,727,585	—

② 【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) NOK株式会社	東京都港区芝大門1-12-15	79,000	—	79,000	0.05
(相互保有株式) 昭和機器工業株式会社	埼玉県比企郡嵐山町大字平澤110-1	100,000	—	100,000	0.06
(相互保有株式) 東伸運輸株式会社	愛知県安城市尾崎町堤下11-1	82,000	—	82,000	0.05
(相互保有株式) 東輝産業株式会社	大阪府八尾市跡部北の町1-3-17	60,000	—	60,000	0.03
(相互保有株式) 和喜輸送株式会社	東京都品川区西中延1-7-3	30,000	—	30,000	0.02
計	—	351,000	—	351,000	0.20

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

① 従業員株式所有制度の概要

当社は、当社グループ従業員の当社の業績や株価への意識を高めることにより、業績向上を目指した業務遂行を一層促進するとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして、「従業員持株E S O P信託」（以下「E S O P信託」といいます）を、2015年11月10日開催の取締役会決議により導入いたしました。なお、本プランは、2018年4月に終了しております。

E S O P信託とは、米国のE S O P制度を参考に、従業員持株会の仕組みを応用した信託型の従業員インセンティブ・プランであり、当社株式を活用した従業員の財産形成を促進し、福利厚生制度の拡充を図る目的を有するものをいいます。

当社が「NOK持株会」に加入するグループ従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、当該信託は以後5年間にわたりNOK持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、予め定める取得期間内に取得し、その後、当該信託は当社株式を毎月一定日にNOK持株会に売却します。信託終了時に株価の上昇により信託収益がある場合には、受益者たる従業員の拠出割合に応じて金銭が分配されます。株価の下落により譲渡損失が生じ信託財産に係る債務が残る場合には、金銭消費貸借契約の保証条項に基づき、当社が銀行に対して一括して弁済します。

② 事業年度末現在の従業員持株会に取得させる予定の株式の総数

— 株

③ 本制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

当社グループ従業員（一定の要件を充足する退職者を含みます）のうち受益者要件を充足する者

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	280	521,068
当期間における取得自己株式	10	17,960

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	79,050	—	79,060	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、配当額の決定について、基本的には中長期的な業績に対応して一定水準の安定した配当を続けていくことが大切だと考えておりますが、一方では、将来の事業展開や財務体質強化のために相当額の内部留保の確保といった観点も重要であり、これらを総合勘案して決定していきたいと考えております。

また当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

なお、当期の配当につきましては、上記利益配当金の基本方針と当期純利益の水準を併せて総合的に勘案しました結果、年間配当額は一株当たり50円（中間配当金25円、期末配当金25円）としました。また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2018年11月9日 取締役会決議	4,326	25.0
2019年6月26日 定時株主総会決議	4,326	25.0

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、単に公正な競争を通じた付加価値創出により経済社会の発展を担うだけでなく、すべての利害関係者、いわゆるステークホルダーに誇りをもってもらい、ともに夢を追い続けることのできる経営を推進し、広く社会にとって有用な存在であることをめざしております。また当社グループは、中・長期的に安定成長・安定収益確保をめざして、経営計画を推進しています。そのため、当社グループでは、コーポレートガバナンスの継続強化を経営の重要課題の一つとして考え、取り組んでいます。

② 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社グループでは、技術革新や最終ユーザーのニーズの変化が激しい経営環境下において、顧客の視点に立った製品・サービスを開発・提供していくためには、業務に精通した取締役が経営の重要事項の決定に関与することが重要と考えております。そのような観点から、業務執行者を兼務する取締役が互いに連携して業務を遂行する一方で、社外取締役を含む取締役による相互監視と社外監査役を含む監査役による経営の監査を行う体制が望ましいと考えており、監査役会制度を採用しております。このような社外人材を含む取締役会・監査役会といった機関を軸として、チェック機能を強化しており、取締役会及び監査役会は、それぞれ当社の全ての取締役及び監査役にて構成されております（それぞれの構成員の氏名及び社外役員に該当する者については、(2) 役員の状況に記載の通りであります）。なお、取締役会の議長は当社取締役会規則の定めにより会長又は社長とされ、監査役会の議長は当社監査役会規則の定めにより監査役の中からこれを定めることとしており、現在は取締役会においては会長が、監査役会においては常勤監査役がそれぞれの議長であります。

加えてグループ全体のガバナンスを高めていくため、グループの主要会社の社長が取締役を兼務しております。

③ 企業統治に関するその他の事項

当社グループでは、会社法の規定に基づき定めている「業務の適正を確保するための体制（内部統制システムの基本方針）」を適切に運用するとともに、東京証券取引所の規定する「コーポレートガバナンス・コード」に則り、コーポレートガバナンスを継続強化することを基本方針として取組み、以下の体制を確保しております。

イ. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

法令、定款及び社内規則等に基づき、株主総会議事録及び取締役会議事録等各種議事録並びに稟議書等決裁書類を各主管部門にて保存・管理し、取締役・監査役はこれらの文書等を閲覧できる体制を確保しております。

ロ. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理規程に基づき、リスクマネジメント委員会がリスクの把握・分析並びに組織横断的なリスク管理体制を推進し、取締役にその実施状況を定期的に報告するとともに、必要により体制を見直しております。

ハ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役（現在9名）は、取締役会規則に基づき取締役会を開催し、取締役の担当職務の決定、事業戦略・経営方針等の重要事項を決定するとともに、各業務部門の業務執行の責任者として執行役員を選任し、各部門における執行の権限を与えて業務の迅速な遂行と目標達成にあたらせ、これを監督しております。また、上級管理職任務権限規程により、職務権限及び意思決定ルールを明確にし、かつ定期的に開催する経営会議及び経営診断を通じて、事業計画・経営施策・業務実施計画の推進状況を確認することで、適切かつ効率的に職務の執行が行われる体制を確保しております。

また、取締役の職務の執行に対しては、労・使により構成される中央労使協議会等、各種委員会を適宜開催し、事業計画・重要組織変更・経営施策等を説明・協議して、効率性を確保しております。

ニ. 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

NOK企業行動憲章に基づき、事業活動においてコンプライアンスを重視することを明確にするとともに、コンプライアンス規程・従業員コンプライアンス行動指針に基づき、従業員教育の実施等により、法令、定款及び社内規則等に適合する体制を確立し、推進しております。

ホ. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

内部統制規程に基づき、次のとおり子会社に対する体制を整備し、企業集団の業務の適正を確保しております。

また、財務報告に係る内部統制規程に基づき、当社並びにグループ各社の財務報告の信頼性の確保のための確認を取締役の指示に基づき実施しております。

・子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

内部統制規程に基づき、子会社管轄部門が管轄する子会社の経営状況を確認するとともに、本社機能部門がそれぞれの所管業務について、子会社に必要な指示と支援を行い、その推進状況を確認しております。

・子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

内部統制規程に基づき、本社機能部門が子会社にリスク管理体制を整備させるとともに、本社機能部門・子会社管轄部門にその実施状況を定期的に報告させ、必要により体制を見直すよう指示しております。

- ・子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

子会社の経営者・管理職が参加する総合経営会議を半期毎に開催し、情報の共有、経営の透明性を図っております。当会議においてグループ経営施策・事業計画の推進状況の報告・討議を行い、企業集団全体の経営の効率性の確保を図っております。

- ・子会社の取締役等・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

内部統制規程に基づき、本社機能部門が子会社に企業行動憲章・コンプライアンス規程・従業員コンプライアンス行動指針を整備させ、事業活動においてコンプライアンスを重視することを明確にさせるとともに、法令、定款及び社内規則等に適合する体制を確立、推進させ、その推進状況を確認しております。

ヘ．取締役及び監査役の責任免除及び責任限定契約

当社は会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議を持って同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の責任を、法令の限度額において免除することができる旨を定款に定めております。これは取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

また、当社と社外取締役及び社外監査役の各氏は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令で定める額としております。

ト．取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨を定款で定めております。

チ．剰余金の配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議により、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）をすることができる旨を定款で定めております。

リ．自己の株式の取得の決定機関

当社は、資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行のため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ヌ．株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項の規定によるべき株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

ル．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらないものとする旨も定款で定めております。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性 14名 女性 一名 (役員のうち女性の比率 ー%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役会長	鶴 正登	1948年1月11日生	1973年3月 当社入社 1978年2月 財経本部副本部長兼企画本部副本部長 1979年6月 取締役 1981年6月 常務取締役 1983年6月 専務取締役 1985年6月 代表取締役社長 1989年6月 代表取締役会長就任(現任) 1989年6月 日本メクトロン㈱代表取締役会長就任(現任) 1989年6月 NOKクリューパー㈱代表取締役会長就任(現任) 1997年7月 NOK Inc. 取締役会長兼社長就任(現任) 2002年4月 ユニマテック㈱代表取締役会長就任(現任) 2007年4月 シンジーテック㈱代表取締役会長就任(現任)	(注) 3	466,100
代表取締役社長	土居 清志	1952年9月12日生	1977年4月 当社入社 2003年6月 取締役 2005年6月 イーグル工業㈱常務取締役 2007年6月 取締役 2007年6月 常務取締役 2009年6月 専務取締役 2013年6月 代表取締役専務 2014年6月 無錫NOKフロイデンベルグ Co., Ltd. 取締役会長就任(現任) 2018年4月 代表取締役社長就任(現任)	(注) 3	39,400
代表取締役専務 事業推進本部長	飯田 二郎	1955年4月9日生	1978年4月 当社入社 2003年6月 取締役 2007年6月 経営企画室長 2009年6月 常務執行役員 2013年6月 取締役 2013年6月 専務取締役 2018年4月 代表取締役専務就任(現任) 2018年4月 事業推進本部長就任(現任) 2018年7月 タイNOK Co., Ltd. 取締役会長就任(現任)	(注) 3	15,500
代表取締役専務 営業本部長	黒木 安彦	1957年2月27日生	1979年4月 当社入社 2004年10月 営業本部副本部長 2005年6月 取締役 2009年6月 常務執行役員 2013年6月 取締役 2013年6月 専務取締役 2013年6月 営業本部長就任(現任) 2018年4月 代表取締役専務就任(現任)	(注) 3	16,600
専務取締役 財経本部長	渡邊 哲	1957年11月18日生	1980年4月 当社入社 2005年6月 取締役 2007年6月 財経本部長就任(現任) 2009年6月 常務執行役員 2013年6月 取締役 2013年6月 専務取締役就任(現任)	(注) 3	18,410

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
専務取締役 技術本部長	長澤 晋治	1957年7月30日生	1980年4月 当社入社 2011年1月 執行役員 2013年6月 常務執行役員 2013年6月 技術本部長就任(現任) 2016年6月 取締役 2016年6月 専務取締役就任(現任)	(注) 3	8,500
取締役	小林 俊文	1957年10月4日生	1980年4月 当社入社 2009年6月 日本メクトロン㈱代表取締役社長就任(現任) 2009年6月 取締役就任(現任)	(注) 3	29,500
取締役	法眼 健作	1941年8月2日生	1964年4月 外務省入省 1998年3月 国際連合事務次長 2001年4月 カナダ駐箚特命全権大使 2005年1月 外務省退官 2015年6月 取締役就任(現任)	(注) 3	1,000
取締役	藤岡 誠	1950年3月27日生	1972年4月 通商産業省(現経済産業省)入省 1996年6月 同省大臣官房審議官 2001年2月 アラブ首長国連邦駐箚特命全権大使 2003年9月 経済産業省退官 2013年6月 日本軽金属株式会社取締役副社長執行役員 2015年7月 公益社団法人新化学技術推進協会専務理事就任(現任) 2016年6月 取締役就任(現任)	(注) 3	2,200
常勤監査役	藤井 雅信	1955年9月22日生	1979年4月 当社入社 2007年7月 経経本部副本部長 2016年6月 常勤監査役就任(現任)	(注) 4	4,000
常勤監査役	森 良次	1956年4月25日生	1981年4月 当社入社 2016年4月 シンジーテックプレジジョンパーツ深セン Co., Ltd. 取締役 2016年6月 常勤監査役就任(現任)	(注) 4	5,000
監査役	小林 修	1956年5月20日生	1983年3月 公認会計士登録 1983年6月 税理士登録 1996年8月 小林会計事務所所長就任(現任) 2012年6月 監査役就任(現任)	(注) 4	3,100
監査役	小川 秀樹	1953年5月5日生	1977年4月 通商産業省(現経済産業省)入省 2004年6月 同省中部経済産業局長 2006年7月 同省中小企業庁次長 2007年1月 防衛省防衛参事官 2008年8月 経済産業省退官 2014年7月 中部電力株式会社専務執行役員 2015年6月 同社常勤監査役 2016年6月 監査役就任(現任) 2016年11月 名古屋商工会議所専務理事就任(現任)	(注) 4	1,000
監査役	梶谷 篤	1968年7月1日生	2000年4月 弁護士登録 2016年6月 監査役就任(現任) 2017年4月 第一東京弁護士会副会長	(注) 4	700
計					611,010

- (注) 1. 取締役 法眼 健作、取締役 藤岡 誠は、社外取締役であります。
2. 監査役 小林 修、監査役 小川 秀樹、監査役 梶谷 篤は、社外監査役であります。
3. 2019年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から1年間。
4. 2016年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。

５．当社は、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる機動的な経営体制を構築するため、執行役員制度を導入しております。執行役員の構成は以下のとおりであります。

常務執行役員	沢木 新一	精密・Ｏリング事業部長
常務執行役員	矢野 武臣	オイルシール事業部長
常務執行役員	中村 哲也	NＢ開発本部長
常務執行役員	黒木 雄一	セルシール開発室長兼生産技術本部長
常務執行役員	藤本 和彦	樹脂・ウレタン事業部長
常務執行役員	菅谷 良裕	営業本部副本部長
常務執行役員	高橋 則幸	業務本部長兼危機管理室長
常務執行役員	折田 純一	事業推進本部副本部長
執行役員	山崎 幸夫	調達本部長
執行役員	樋本 章治	営業本部副本部長
執行役員	小林 正信	防振ゴム事業部長
執行役員	中山 富雄	品質・環境管理室長
執行役員	鎌田 浩	ガasket・ブーツ事業部長
執行役員	齋藤 慶胤	事業推進本部副本部長
執行役員	石田 光弘	IT本部長
執行役員	池崎 雅人	タイNOK Co.,Ltd. 取締役社長

② 社外役員の状況

当社の社外取締役は２名、社外監査役は３名であります。

社外取締役法眼健作氏、藤岡 誠氏及び社外監査役梶谷 篤氏の兼職先であるイーグル工業株式会社と当社との間に、商品売買等の取引関係があります。

当社において、社外取締役については、会社法で定める社外要件、及び東京証券取引所が定める独立性基準に従うとともに、豊かな経験と高い識見に基づく客観的で広範かつ高度な視野から当社の企業活動に助言いただくことが期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないこと、社外監査役については、会社法で定める社外要件、及び東京証券取引所が定める独立性基準に従うとともに、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

社外取締役及び社外監査役各氏の選任理由は次のとおりであり、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしております。

社外取締役法眼健作氏は、外交における豊かな経験と高い識見に基づき、客観的で広範かつ高度な視野から当社の事業活動全般に助言いただくため、選任しております。また、当社との間に意思決定に対して影響を与える利害関係は無く、中立・公正な立場を保持していると判断しております。

社外取締役藤岡誠氏は、産業政策及び外交における豊かな経験と高い識見並びにそれらに基づいた企業経営の実績を有しており、客観的で広範かつ高度な視野から当社の事業活動に助言いただくため、選任しております。また、当社との間に意思決定に対して影響を与える利害関係は無く、中立・公正な立場を保持していると判断しております。

社外監査役小林修氏は、公認会計士及び税理士としての財務及び会計に関する豊富な経験並びに知見に基づくご意見を当社の監査に反映していただくため、選任しております。また、当社との間に意思決定に対して影響を与える利害関係は無く、中立・公正な立場を保持していると判断しております。

社外監査役小川秀樹氏は、産業政策に関する豊富な経験と高い識見並びにそれらに基づいた企業経営の実績を有しており、当社の事業活動全般に対するご意見を当社の監査に反映していただくため、選任しております。また、当社との間に意思決定に対して影響を与える利害関係は無く、中立・公正な立場を保持していると判断しております。

社外監査役梶谷篤氏は、弁護士としての企業法務に関する豊富な経験と幅広い識見に基づく、当社の経営全般にわたる大所高所からのご意見を当社の監査に反映していただくため、選任しております。また、当社との間に意思決定に対して影響を与える利害関係は無く、中立・公正な立場を保持していると判断しております。

③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

取締役の職務執行を監督するため、監査役会規則に基づき監査役会で策定された監査方針、監査計画に則り、監査役が、取締役会他重要な会議への出席並びに業務及び財務の状況調査を行える体制を確保するとともに、会計監査人と監査役が、定期的な意見交換を実施しております。また、代表取締役と監査役が相互に意見交換等を

行う「代表取締役・監査役会」、並びに社外取締役と監査役が相互に意見交換等を行う「社外取締役・監査役会」を定期的の実施しております。

なお、取締役会の諮問機関である内部統制監査委員会が、内部統制規程に基づき、当社及び子会社の業務の適正を確保する体制を定期的に監査し、その結果を取締役会及び監査役会へ報告しております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

当社は監査役会制度を採用しており、監査役会は監査役5名（うち社外監査役3名）で構成しております。

取締役の職務執行を監督するため、監査役会規則に基づき監査役会で策定された監査方針、監査計画に則り、監査役が、取締役会他重要な会議への出席並びに業務及び財務の状況調査を行える体制を確保しております。また、会計監査人と監査役が、定期的な意見交換を実施しております。更には、代表取締役と監査役が相互に意見交換等を行う「代表取締役・監査役会」を定期的 to 実施しております。

なお、常勤監査役藤井雅信氏および森良次氏は、長年にわたる財務経理部門での経験を有し、社外監査役小林修氏は公認会計士・税理士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

② 内部監査の状況

取締役会の諮問機関である内部統制監査委員会が、内部統制規程に基づき、当社及び子会社の業務の適正を確保する体制を定期的に監査し、その結果を監査役会へ報告しております。また、会計監査部門が財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準等に基づいた評価業務を推進し、評価結果について監査役、会計監査人に情報提供を行い連携しています。

③ 会計監査の状況

イ. 監査法人の名称

監査法人日本橋事務所

ロ. 業務を執行した公認会計士

千葉 茂寛

吉岡 智浩

ハ. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士8名及びその他2名の補助者とともに監査を実施しております。

ニ. 監査法人の選定方針と理由

会計監査人に必要とされる専門性、独立性及び監査品質管理と、当社グループのグローバルな事業活動を一元的に監査する体制を有していることにより、監査法人日本橋事務所を会計監査人として選任するものであります。

一方、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められた場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

ホ. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

会計監査人が独立性及び必要な専門性を有し、当社の広範な業務内容に対応して効率的な監査ができる体制が整備されており、さらに年間を通した現場監査の立会い状況や四半期レビューの報告聴取等からも、会計監査の品質が維持されていると評価しています。監査計画並びに監査費用は合理的かつ妥当なものと判断しております。

④ 監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意（56）d（f）iからiiiの規定に経過措置を適用しております。

イ. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	37	1	38	—
連結子会社	34	—	34	—
計	71	1	72	—

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、財務調査に係る業務であります。

ロ. その他重要な報酬の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

ハ. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案した上で決定しております。

ニ. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社監査役会は、取締役、社内関係部署及び会計監査人から必要な資料を入手し、報告を受けるほか、会計監査人の職務遂行状況、監査計画の内容及び報酬見積もりの相当性等を確認した結果、監査品質を維持向上してゆくために合理的な水準にあると判断し同意しております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

イ. 役員報酬等の額の決定に関する方針の内容、及び決定方法について

取締役の報酬は、各事業年度における業績の向上並びに中長期的な企業価値の増大に向けて職責を負うことを考慮し、固定報酬部分と長期成果期待部分からなる基本報酬、及び業績連動報酬の二区分とすることを取締役会にて決定しております。また、監査役の報酬は、当社グループ全体の職務執行に対する監査の職責を負うことから、職位に応じた基本報酬、並びに取締役とは異なる観点からの業績向上へ寄与する職責に対し、常勤監査役には業績連動報酬、の二区分としております。

ロ. 役員持株会について

基本報酬のうち、長期成果期待部分は役員持株会を通じ、毎月一定額の当社株式を購入するとともに、在任期間中継続して保有することとしております。役員持株会への拠出額は、固定報酬額のうち、役位に応じ、7%から10%程度を充当しております。なお、社外役員には役員持株会の拠出は求めず、また、主要子会社の社長兼務の取締役の場合には、当該子会社報酬から拠出いたします。

ハ. 役職毎の方針について

当社の報酬体系は役職（会長職、社長職、専務職等の役付）の職責に応じ、報酬額に階差を設けております。現在適用している階差では、専務職1に対し、会長、社長職は1.5内外の設定であります。

ニ. 役員報酬等に関する株主総会決議について

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議年月日は2009年6月25日であり、取締役（10人）の報酬につきましては、総額上限を450百万円、監査役（5人）の報酬につきましては、同日、総額上限を96百万円と決議しております。

ホ. 役員報酬等の決定権限者、及び決定方法について

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限につきましては、取締役会議長である取締役会長が役員報酬案を取締役会に上程し、取締役会にて決定いたします。事業年度の業績連動報酬は2019年4月17日開催の取締役会で審議決定されました。なお、監査役報酬の支給案は監査役会にて協議され、合議の上決定しております。

ヘ. 業績連動報酬について

当社の業域は自動車、電子機器等の部品の製造販売であり、業績が同業界の動向に左右され易い状況も勘案し、業績連動報酬の割合は取締役は報酬総額の概ね10%、常勤監査役は概ね5%としております。また、当該業績連動報酬は、評価項目の達成度に応じ、0%から200%の範囲で支給しております。業績連動報酬の決定に際しては、企業業績の指標として利益水準の維持向上が最も適切であるとの判断から、期初営業利益計画の達成度合いを中心に、配当実施額、従業員賞与支給額、その他業績に影響を与える事項（天災、特別損益等）を勘案し、決定いたしました。

ト. 最近事業年度における業績連動報酬に係わる指標について

定量評価における主たる指標が期初営業利益計画に対する達成度であることから、以下に結果を記載いたします。

期初連結営業利益計画	49,000百万円
実績	23,140百万円

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額（百万円）		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	業績連動報酬	
取締役（社外取締役を除く。）	284	278	6	8
監査役（社外監査役を除く。）	42	40	1	2
社外役員	30	30	0	5

③ 連結報酬等の総額が1億円以上である者の連結報酬等の総額等

該当ありません。

④ 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当ありません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

純投資目的株式には、専ら株式価値の変動又は配当金を目的として保有する株式を、純投資目的以外の株式には、それらの目的に加えて中長期的な企業価値の向上に資すると判断し保有する株式を区分しております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容
当社は、取引先との信頼関係強化による販売の拡大、安定調達、安定的な資金調達等といった、販売・購入活動等における事業の円滑な推進が見込めることを基本に株式を保有する方針としております。また、定期的に個別銘柄毎に経営状況・取引状況等を確認・評価し、保有の適否を決定する方針としております。具体的には、年1回、過去3年の取引状況の確認による事業上のシナジーだけではなく、各銘柄の経営状況について成長性・収益性・安全性・評価性の指標により現状把握を実施し、取締役会にて、その結果を検証のうえ、保有の適否を確認しております。当事業年度においては、2018年6月18日の取締役会において検証を実施しております。当事業年度末は96銘柄保有しております。

ロ. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (百万円)
非上場株式	10	47
非上場株式以外の株式	86	95,699

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 (百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	6	1,315	株式取得により中長期的な企業価値の向上に資すると判断したため

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 (百万円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	1	43

ハ、特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
トヨタ自動車(株)	2,997,391	2,997,391	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	19,444	20,457		
ダイキン工業(株)	706,400	706,400	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	9,162	8,289		
本田技研工業(株)	2,600,000	2,600,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	7,787	9,516		
(株)小糸製作所	1,106,000	1,106,000	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	6,934	8,162		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
スズキ(株)	1,067,800	1,067,800	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	5,230	6,118		
(株)ニフコ	964,400	964,400	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	2,719	3,500		
日本ゼオン(株)	2,397,900	1,533,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。当事業年度において、事業関係のより一層の強化のため保有株数が864,900株増加しています。	有
	2,685	2,357		
(株)ヤクルト本社	292,900	292,900	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	2,267	2,305		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
(株)小松製作所	844,300	844,300	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	2,170	2,994		
リックス(株)	1,167,891	1,167,891	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,788	2,470		
日本発条(株)	1,775,000	1,775,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,764	1,996		
日産自動車(株)	1,839,731	1,839,731	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	1,670	2,031		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	370,148	370,148	同社株式は、当社シール事業セグメント等の事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,434	1,650		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
(株)カネカ	332,600	1,663,000	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,378	1,754		
富士フィルムホールディングス(株)	270,400	270,400	同社株式は、当社ロール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	1,361	1,147		
スタンレー電気(株)	455,000	455,000	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,353	1,788		
TOTO(株)	272,500	272,500	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	1,279	1,528		
東海カーボン(株)	911,000	911,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,259	1,504		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
(株)日本触媒	174,200	174,200	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,257	1,257		
Pyung Hwa Holdings Co. LTD (PHHC)	2,106,371	2,106,371	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	1,143	1,573		
マツダ(株)	910,000	910,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	1,127	1,279		
コニカミノルタ(株)	1,000,000	1,000,000	同社株式は、当社ロール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1,089	912		
ユー・エム・シー・ エレクトロニクス(株)	666,300	640,000	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。当事業年度において、事業関係のより一層の強化のため保有株数が26,300株増加しています。	有
	1,059	1,700		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
クリヤマホールディングス(株)	1, 095, 600	547, 800	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。当事業年度において、株式分割により保有株数が547,800株増加しています。	有
	1, 021	1, 217		
日本曹達(株)	345, 000	1, 725, 000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	1, 008	1, 038		
日本パーカライジング(株)	708, 000	708, 000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	978	1, 230		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1, 775, 280	1, 775, 280	同社株式は、当社シール事業セグメント等の事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	976	1, 237		
大陽日酸(株)	579, 000	579, 000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	976	932		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
いすゞ自動車(株)	606,283	600,833	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。当事業年度において、事業関係のより一層の強化のため保有株数が5,450株増加しています。	有
	881	980		
(株)大林組	696,000	696,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	775	810		
K Y B(株)	279,500	279,500	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	759	1,411		
ブラザー工業(株)	323,152	323,152	同社株式は、当社ロール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	661	799		
極東開発工業(株)	444,100	444,100	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	657	695		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
(株)クボタ	395,000	395,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	631	735		
阪和興業(株)	204,000	204,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	629	913		
(株)ユーシン	615,600	615,600	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	605	465		
佐藤商事(株)	619,000	619,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	560	722		
信越化学工業(株)	52,500	52,500	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	487	577		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
長瀬産業(株)	276,000	276,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	438	498		
N T N(株)	1,322,000	1,322,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	433	586		
東亜合成(株)	354,000	354,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	414	443		
プレス工業(株)	702,000	702,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	412	444		
東ソー(株)	231,000	231,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	397	482		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
(株)有沢製作所	452,300	452,300	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	358	445		
アルプス電気(株)	150,680	150,000	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。当事業年度において、株式交換により保有株数が680株増加しています。	無
	348	391		
(株)不二越	78,000	780,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	347	503		
日野自動車(株)	331,000	331,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	308	453		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
(株)ショーワ	212,128	208,578	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。当事業年度において、事業関係のより一層の強化のため保有株数が3,550株増加しています。	有
	299	373		
パナソニック(株)	291,768	291,768	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	278	443		
井関農機(株)	134,931	134,931	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	219	284		
(株)SUBARU	85,710	85,710	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	216	298		
曙ブレーキ工業(株)	1,417,900	1,417,900	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	175	405		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
J S R(株)	100,000	100,000	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	171	239		
日本高純度化学(株)	71,300	71,300	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	169	184		
(株)タムラ製作所	255,600	255,600	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	156	208		
日立建機(株)	48,257	48,257	同社株式は、当社シール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	141	198		
京セラ(株)	21,000	21,000	同社株式は、当社ロール事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	136	126		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
(株)日立製作所	34,690	173,450	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	無
	124	133		
イワキ(株)	297,300	—	同社株式は、当社電子部品事業セグメントの事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。当事業年度において、事業関係のより一層の強化のため保有株数が297,300株増加しています。	有
	118	—		
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	40,910	204,554	同社株式は、当社シール事業セグメント等の事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	100	117		
(株)大和証券グループ本社	161,000	161,000	同社株式は、当社シール事業セグメント等の事業活動の円滑化のため保有しています。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載していませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しています。	有
	86	109		

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成30年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。）による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報のうち、改正府令による改正後の財務諸表等規則第8条の12第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表について、監査法人日本橋事務所による監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	89,457	80,798
受取手形及び売掛金	※3 149,422	※3 145,168
商品及び製品	38,611	35,936
仕掛品	29,812	29,430
原材料及び貯蔵品	20,347	21,348
その他	14,968	15,303
貸倒引当金	△236	△157
流動資産合計	342,382	327,828
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※2 185,679	※2 199,833
減価償却累計額	△99,361	△110,138
建物及び構築物（純額）	※2 86,318	※2 89,695
機械装置及び運搬具	369,485	388,597
減価償却累計額	△259,579	△277,628
機械装置及び運搬具（純額）	109,905	110,968
工具、器具及び備品	77,142	82,127
減価償却累計額	△56,900	△62,616
工具、器具及び備品（純額）	20,241	19,510
土地	※2 21,874	※2 18,701
リース資産	2,588	2,138
減価償却累計額	△2,314	△1,935
リース資産（純額）	273	203
建設仮勘定	18,734	23,416
有形固定資産合計	257,348	262,496
無形固定資産	4,061	4,760
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 154,774	※1, ※2 150,066
従業員に対する長期貸付金	3,444	3,078
繰延税金資産	8,646	13,773
退職給付に係る資産	210	718
その他	※1 22,615	※1 22,583
貸倒引当金	△169	△174
投資その他の資産合計	189,522	190,047
固定資産合計	450,931	457,304
資産合計	793,314	785,133

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	57,571	44,557
短期借入金	※258,398	※266,972
未払法人税等	5,084	3,549
賞与引当金	9,712	10,125
債務保証損失引当金	668	—
従業員預り金	16,210	16,226
その他	37,990	39,629
流動負債合計	185,636	181,061
固定負債		
長期借入金	※29,931	※219,563
繰延税金負債	11,707	7,133
退職給付に係る負債	82,302	87,842
その他	3,841	4,033
固定負債合計	107,783	118,572
負債合計	293,419	299,634
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,335	23,335
資本剰余金	22,837	23,244
利益剰余金	367,822	362,604
自己株式	△323	△226
株主資本合計	413,672	408,959
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	57,490	47,694
為替換算調整勘定	11,909	12,157
退職給付に係る調整累計額	△23,416	△24,633
その他の包括利益累計額合計	45,983	35,218
非支配株主持分	40,238	41,321
純資産合計	499,894	485,498
負債純資産合計	793,314	785,133

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	729,341	669,482
売上原価	600,098	560,045
売上総利益	129,242	109,437
販売費及び一般管理費	※1, ※284,308	※1, ※286,297
営業利益	44,934	23,140
営業外収益		
受取利息	528	525
受取配当金	2,208	2,468
為替差益	1,203	408
持分法による投資利益	6,510	4,033
受取賃貸料	965	914
その他	3,024	3,096
営業外収益合計	14,441	11,446
営業外費用		
支払利息	2,335	2,798
その他	748	652
営業外費用合計	3,084	3,450
経常利益	56,291	31,135
特別利益		
固定資産売却益	※3450	※3332
その他	175	37
特別利益合計	625	369
特別損失		
固定資産除売却損	※43,002	※43,063
減損損失	18	※514,749
その他	1,030	781
特別損失合計	4,051	18,594
税金等調整前当期純利益	52,866	12,909
法人税、住民税及び事業税	13,148	11,814
法人税等調整額	528	△5,049
法人税等合計	13,676	6,765
当期純利益	39,189	6,144
非支配株主に帰属する当期純利益	3,908	2,725
親会社株主に帰属する当期純利益	35,281	3,419

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	39,189	6,144
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,926	△9,752
為替換算調整勘定	2,200	647
退職給付に係る調整額	1,340	△1,195
持分法適用会社に対する持分相当額	704	△777
その他の包括利益合計	※ 14,172	※ 1 △11,077
包括利益	53,362	△4,933
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	48,726	△7,346
非支配株主に係る包括利益	4,636	2,412

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	23,335	22,759	341,188	△1,157	386,126
当期変動額					
剰余金の配当			△8,648		△8,648
親会社株主に帰属する 当期純利益			35,281		35,281
自己株式の取得				△16	△16
自己株式の処分				850	850
連結子会社の自己株式 取得による持分の増減					—
連結子会社の合併によ る増減					—
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		77			77
持分法適用会社の増加 に伴う利益剰余金増加 高					—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	77	26,633	834	27,545
当期末残高	23,335	22,837	367,822	△323	413,672

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	47,573	9,961	△24,995	32,539	36,445	455,111
当期変動額						
剰余金の配当						△8,648
親会社株主に帰属する 当期純利益						35,281
自己株式の取得						△16
自己株式の処分						850
連結子会社の自己株式 取得による持分の増減						—
連結子会社の合併によ る増減						—
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動						77
持分法適用会社の増加 に伴う利益剰余金増加 高						—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	9,916	1,948	1,579	13,444	3,793	17,237
当期変動額合計	9,916	1,948	1,579	13,444	3,793	44,783
当期末残高	57,490	11,909	△23,416	45,983	40,238	499,894

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	23,335	22,837	367,822	△323	413,672
当期変動額					
剰余金の配当			△8,648		△8,648
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,419		3,419
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分				98	98
連結子会社の自己株式 取得による持分の増減		4			4
連結子会社の合併による 増減		126			126
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		275			275
持分法適用会社の増加 に伴う利益剰余金増加 高			11		11
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	407	△5,217	97	△4,713
当期末残高	23,335	23,244	362,604	△226	408,959

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	57,490	11,909	△23,416	45,983	40,238	499,894
当期変動額						
剰余金の配当						△8,648
親会社株主に帰属する 当期純利益						3,419
自己株式の取得						△0
自己株式の処分						98
連結子会社の自己株式 取得による持分の増減						4
連結子会社の合併による 増減						126
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動						275
持分法適用会社の増加 に伴う利益剰余金増加 高						11
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△9,795	247	△1,217	△10,765	1,083	△9,682
当期変動額合計	△9,795	247	△1,217	△10,765	1,083	△14,395
当期末残高	47,694	12,157	△24,633	35,218	41,321	485,498

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	52,866	12,909
減価償却費	43,970	46,829
減損損失	18	14,749
賞与引当金の増減額 (△は減少)	355	△94
退職給付に係る資産又は負債の増減額	2,138	3,647
受取利息及び受取配当金	△2,737	△2,993
支払利息	2,335	2,798
為替差損益 (△は益)	△3,011	2,095
持分法による投資損益 (△は益)	△6,510	△4,033
有形固定資産除売却損益 (△は益)	2,570	2,745
売上債権の増減額 (△は増加)	6,248	5,770
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11,883	2,762
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,722	△10,932
その他	1,031	△876
小計	82,667	75,376
利息及び配当金の受取額	3,759	4,188
利息の支払額	△2,348	△2,705
法人税等の支払額	△14,551	△13,004
営業活動によるキャッシュ・フロー	69,526	63,854
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	1,064	29
長期貸付けによる支出	△1,934	—
投資有価証券の取得による支出	△330	△9,819
有形固定資産の取得による支出	△58,293	△68,527
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	※2 △2,692
有形固定資産の売却による収入	1,587	2,304
無形固定資産の取得による支出	△258	△568
その他	△517	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,681	△79,259
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	3,433	7,553
長期借入れによる収入	4,000	18,641
長期借入金の返済による支出	△10,924	△9,430
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△483	△144
自己株式の純増減額 (△は増加)	834	97
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△110
配当金の支払額	△8,648	△8,648
非支配株主への配当金の支払額	△614	△1,313
その他	△607	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,010	6,633
現金及び現金同等物に係る換算差額	955	△280
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,209	△9,052
現金及び現金同等物の期首残高	90,629	89,420
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	393
現金及び現金同等物の期末残高	※1 89,420	※1 80,761

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社

連結子会社の数 93社。

主要な連結子会社名については、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

なお、当連結会計年度において、重要性が増したこと等により、メクテックマニュファクチャリング Corp. ヨーロッパ CZ s.r.o.、他2社を連結の範囲に含めております。

また、フガクモールドプロダクツ(無錫)Co.,Ltd.、他1社を清算したことにより、連結の適用範囲から除外しております。

(2) 非連結子会社

主要な非連結子会社：メクテック台湾(健益)

非連結子会社の総資産額・売上高・当期純損益及び利益剰余金等の各合計は、連結財務諸表上の総資産額・売上高・親会社株主に帰属する当期純損益及び利益剰余金等に対し、いずれも僅少であり、全体として連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲に含めておりません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社数 8社。

主要な持分法適用非連結子会社：メクテック台湾(健益)

なお、当連結会計年度において、新たに株式を取得したことにより、神奈川精機株式会社を持分法適用の非連結子会社に含めております。

また、連結子会社に変更したこと等により、メクテックマニュファクチャリング Corp. ヨーロッパ CZ s.r.o.、他2社を持分法適用の非連結子会社から除外しております。

(2) 持分法を適用した関連会社数 16社。

主要な持分法適用関連会社：イーグル工業(株)、平和オイルシール工業(株)、フロイデンベルグ NOK GP

なお、新規設立したこと等により、当連結会計年度よりE S M株式会社、他2社を持分法の適用範囲に含めております。

(3) 持分法適用除外の非連結子会社及び関連会社

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は40社であり、その事業年度末日は12月31日であります。このうちNOK Inc.につきましては、当該事業年度末日と連結会計年度末日との間に生じた重要な取引については、連結上、必要な調整を行うこととしております。また、メクテックマニュファクチャリングCorp. 珠海Ltd. 他38社につきましては、連結決算日である3月31日に本決算に準じた仮決算を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

② デリバティブ

時価法によっております。

③ たな卸資産

当社及び国内連結子会社の製品・仕掛品は主として売価還元法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)、原材料及び貯蔵品は総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)により評価しております。在外連結子会社は主として移動平均法又は先入先出法による低価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 5～50年

機械装置及び運搬具 4～10年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

- ③ リース資産
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
 - リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法を採用しております。
- ④ 長期前払費用
 - 均等償却しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
 - ① 貸倒引当金
 - 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等については個別に債権の回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - 海外連結子会社は、主として債権の実態に応じ貸倒見積額を計上しております。
 - ② 賞与引当金
 - 従業員賞与の支払いに備えるため、主として支給見込額基準により計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
 - ① 退職給付見込額の期間帰属方法
 - 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ② 数理計算上の差異の費用処理方法
 - 数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。
- (5) ヘッジ会計の方法
 - ① ヘッジ会計の方法
 - 金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を行っております。
 - ② ヘッジ手段とヘッジ対象
 - （ヘッジ手段） 金利スワップ
 - （ヘッジ対象） 借入金金利
 - ③ ヘッジ方法
 - 金利スワップについては、借入金の金利変動によるリスクをヘッジする目的で行っております。
 - ④ ヘッジ有効性評価の方法
 - 金利スワップについては、特例処理の要件を満たしており、その判定をもって有効性の判定に代えております。
- (6) のれんの償却方法及び償却期間
 - のれんの償却については、原則として5年間の均等償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクしか負わない、取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理方法

当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

② 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2021年3月期の期首から早期適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありま

す。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、独立掲記していた「特別利益」の「投資有価証券売却益」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度において、「特別利益」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別利益」の「投資有価証券売却益」に表示していた162百万円、「その他」12百万円は、「その他」175百万円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「特別損失」の「事業構造改善費用」、「債務保証損失引当金繰入額」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。また、前連結会計年度において、「特別損失」の「その他」に含めて表示しておりました「減損損失」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。これら表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」に表示していた「事業構造改善費用」322百万円、「債務保証損失引当金繰入額」268百万円、「その他」458百万円は、「減損損失」18百万円、「その他」1,030百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「減損損失」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた1,049百万円は、「減損損失」18百万円、「その他」1,031百万円として組み替えております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」が6,026百万円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が3,843百万円増加しております。また、「流動負債」の「その他」が15百万円(繰延税金負債相当額)減少し、「固定負債」の「繰延税金負債」が2,167百万円減少しております。

なお、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺して表示しており、変更前と比べて総資産が2,183百万円減少しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、当社グループ従業員の当社の業績や株価への意識を高めることにより、業績向上を目指した業務遂行を一層促進するとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして、「従業員持株E S O P信託」(以下「E S O P信託」といいます)を、2015年11月10日開催の取締役会決議により導入いたしました。なお、本プランは、2018年4月に終了しております。

(1) E S O P信託の概要

E S O P信託とは、米国のE S O P制度を参考に、従業員持株会の仕組みを応用した信託型の従業員インセンティブ・プランであり、当社株式を活用した従業員の財産形成を促進し、福利厚生制度の拡充を図る目的を有するものをいいます。

当社が「NOK持株会」に加入するグループ従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、当該信託は以後5年間にわたりNOK持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、予め定める取得期間内に取得し、その後、当該信託は当社株式を毎月一定日にNOK持株会に売却します。信託終了時に株価の上昇により信託収益がある場合には、受益者たる従業員の拠出割合に応じて金銭が分配されます。株価の下落により譲渡損失が生じ信託財産に係る債務が残る場合には、金銭消費貸借契約の保証条項に基づき、当社が銀行に対して一括して弁済します。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度98百万円、29千株、当連結会計年度一百万円、一千株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前連結会計年度1,320百万円、当連結会計年度一百万円

(連結貸借対照表関係)

1. ※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	45,133百万円	53,295百万円
その他(出資金)	14,832	17,097

2. ※2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
建物及び構築物	398百万円	350百万円
土地	82	18
投資有価証券	—	7
計	481	376

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金)	64百万円	74百万円
長期借入金	223	177
計	287	251

3. 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形割引高	—百万円	12百万円
受取手形裏書譲渡高	—	136

4. ※3 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	1,826百万円	1,776百万円
受取手形裏書譲渡高	—	10

(連結損益計算書関係)

1. ※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給料及び手当	24,848百万円	25,977百万円
運賃	13,208	13,368
研究開発費	9,443	10,459
賞与引当金繰入額	2,706	2,475
退職給付費用	2,849	2,685

2. ※2 一般管理費に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	9,443百万円	10,459百万円

3. ※3 固定資産売却益の主なものの内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	94百万円	162百万円
機械装置及び運搬具	87	146
工具、器具及び備品	57	22
土地	211	0

4. ※4 固定資産除売却損の主なものの内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	393百万円	902百万円
機械装置及び運搬具	2,429	1,897
工具、器具及び備品	123	157
土地	53	96
その他	—	9

5. ※5 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

場所	用途	種類
茨城県牛久市	事業用資産	機械装置、建物及び構築物
タイ アユタヤ県	遊休資産	機械装置
中国 上海市	事業用資産	機械装置、無形固定資産

(2) 減損損失の認識に至った経緯

資産グループについて、市場および環境の変化に伴う収益性の低下による減損の兆候が認められ、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上致しました。

(3) 減損損失の金額

固定資産の種類	金額 (百万円)
建物及び構築物	4,442
機械装置及び運搬具	5,767
工具、器具及び備品	899
土地	3,106
無形固定資産	465
投資その他の資産 (その他)	70
計	14,749

(4) 資産のグルーピングの方法

当社グループは、原則として管理会計上の事業区分に基づく事業部単位をキャッシュ・フローを生み出す最小の単位とし、グルーピングを行っています。なお、一部の連結子会社については、会社単位を基準としてグルーピングを行っています。また、本社等の全社的な資産については、複数の資産又は資産グループの将来キャッシュ・フローの生成に寄与する資産として独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。遊休資産および処分予定資産については、当該資産ごとにグルーピングを行っております。

(5) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、正味売却可能価額または使用価値を基に算定しております。正味売却可能価額については処分価額により評価し、使用価値については将来キャッシュ・フローを主として6.7%で割り引いて算出しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	14,316百万円	△14,196百万円
組替調整額	△157	263
税効果調整前	14,158	△13,932
税効果額	△4,232	4,180
その他有価証券評価差額金	9,926	△9,752
為替換算調整勘定：		
当期発生額	2,200	647
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	△2,053	△7,517
組替調整額	5,461	5,139
税効果調整前	3,407	△2,378
税効果額	△2,066	1,182
退職給付に係る調整額	1,340	△1,195
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	704	△777
その他の包括利益合計	14,172	△11,077

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	173,138,537	—	—	173,138,537
合計	173,138,537	—	—	173,138,537
自己株式				
普通株式	452,309	6,265	262,749	195,825
合計	452,309	6,265	262,749	195,825

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数には、従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式（当連結会計年度期首280千株、当連結会計年度末29千株）が含まれております。

2. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加265株、持分法適用会社が取得した自己株式（当社株式）の当社帰属分6,000株であります。

3. 自己株式の数の減少は、従業員持株E S O P信託口からN O K持株会に売却した当社株式であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月28日 定時株主総会	普通株式	4,326	25.0	2017年3月31日	2017年6月29日
2017年11月9日 取締役会	普通株式	4,326	25.0	2017年9月30日	2017年12月4日

(注) 1. 2017年6月28日定時株主総会の決議による配当金の総額には、従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式に対する配当金7百万円が含まれております。

2. 2017年11月9日取締役会の決議による配当金の総額には、従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,326	利益剰余金	25.0	2018年3月31日	2018年6月28日

(注) 2018年6月27日定時株主総会の決議による配当金の総額には、従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数 (株)	当連結会計年度増 加株式数 (株)	当連結会計年度減 少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	173,138,537	—	—	173,138,537
合計	173,138,537	—	—	173,138,537
自己株式				
普通株式	195,825	280	29,200	166,905
合計	195,825	280	29,200	166,905

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数には、従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式（当連結会計年度期首29千株、当連結会計年度末一千株）が含まれております。

2. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取り等によるものです。

3. 自己株式の数の減少は、従業員持株E S O P信託口からNOK持株会に売却した当社株式であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,326	25.0	2018年3月31日	2018年6月28日
2018年11月9日 取締役会	普通株式	4,326	25.0	2018年9月30日	2018年12月4日

(注) 1. 2018年6月27日定時株主総会の決議による配当金の総額には、従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	4,326	利益剰余金	25.0	2019年3月31日	2019年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	89,457百万円	80,798百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△37	△37
現金及び現金同等物	89,420	80,761

※2 当連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに蘇州紫虹電子科技有限公司を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに蘇州紫虹電子科技有限公司株式の取得価額と蘇州紫虹電子科技有限公司取得のための支出（純額）との関係は次のとおりであります。

流動資産	3,980百万円
固定資産	1,653
のれん	1,338
流動負債	△183
固定負債	—
非支配株主持分	—
蘇州紫虹電子科技有限公司株式の取得価額	6,789
前渡金	△1,026
蘇州紫虹電子科技有限公司現金及び現金同等物	△3,070
差引：蘇州紫虹電子科技有限公司取得のための支出	2,692

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース

①リース資産の内容

有形固定資産

「機械装置及び運搬具」・「工具器具及び備品等」であります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	148	198
1年超	1,113	1,260
合計	1,261	1,459

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、安全かつ確実な投資対象により行い、また、資金調達については、主として金融機関からの借入により行う方針です。デリバティブは、実需に基づく為替予約を利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理に関する定めに従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を半期ごとに把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が財務担当役員に報告されております。

従業員に対する貸付金は、担保の提供を義務付け、かつ、退職時残高の退職金との相殺規定を定めております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金（原則として5年以内）は設備投資に備えた資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、この内長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規定に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次の資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

従業員からの預り金は、固定金利であり、金利変動リスクはありません。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約金額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかわる市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

前連結会計年度（2018年3月31日）

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	89,457	89,457	-
(2) 受取手形及び売掛金	149,422	149,422	-
(3) 投資有価証券	109,528	109,528	-
(4) 従業員に対する長期貸付金	3,444	3,780	336
資産計	351,853	352,189	336
(1) 買掛金	57,571	57,571	-
(2) 短期借入金	58,398	58,398	-
(3) 従業員預り金	16,210	16,210	-
(4) 長期借入金	9,931	9,938	7
負債計	142,112	142,119	7
デリバティブ取引 (※)	(6)	(6)	-

(※) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については () で示しております。

当連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
（１）現金及び預金	80,798	80,798	-
（２）受取手形及び売掛金	145,168	145,168	-
（３）投資有価証券	96,659	96,659	-
（４）従業員に対する長期貸付金	3,078	3,376	297
資産計	325,705	326,003	297
（１）支払手形及び買掛金	44,557	44,557	-
（２）短期借入金	66,972	66,972	-
（３）従業員預り金	16,226	16,226	-
（４）長期借入金	19,563	19,628	64
負債計	147,320	147,384	64
デリバティブ取引（※）	4	4	-

（※）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

（注１）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

- （１）現金及び預金、並びに（２）受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- （３）投資有価証券

この時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

- （４）従業員に対する長期貸付金

当社グループでは、従業員に対する長期貸付金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回りを基準とした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

- （１）買掛金、並びに（２）短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- （３）従業員預り金

従業員からの預り金は、期間が１年以内であり、固定金利である為、当該帳簿価額によっております。

- （４）長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注意事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

（注２）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非上場株式	112	112

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「（３）投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定
前連結会計年度 (2018年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	89,457	—	—	—
受取手形及び売掛金	149,422	—	—	—
従業員に対する長期貸付金	454	1,261	1,078	649
合計	239,335	1,261	1,078	649

当連結会計年度 (2019年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	80,798	—	—	—
受取手形及び売掛金	145,168	—	—	—
従業員に対する長期貸付金	369	1,431	1,278	—
合計	226,335	1,431	1,278	—

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度 (2018年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	58,398	—	—	—	—	—
従業員預り金	16,210	—	—	—	—	—
長期借入金	—	4,855	2,223	665	656	1,531
合計	74,608	4,855	2,223	665	656	1,531

当連結会計年度 (2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	66,972	—	—	—	—	—
従業員預り金	16,226	—	—	—	—	—
長期借入金	—	4,814	4,500	4,491	4,222	1,535
合計	83,199	4,814	4,500	4,491	4,222	1,535

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (2018年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	109,273	27,461	81,812
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	109,273	27,461	81,812
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	255	336	△80
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	255	336	△80
合計		109,528	27,797	81,731

当連結会計年度（2019年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	（１）株式	94,795	26,653	68,141
	（２）債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	（３）その他	—	—	—
	小計	94,795	26,653	68,141
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	（１）株式	1,863	2,259	△395
	（２）債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	（３）その他	—	—	—
	小計	1,863	2,259	△395
合計		96,659	28,912	67,746

２．売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
株式	319	161	2

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
株式	44	32	—

３．減損処理を行った有価証券

前連結会計年度においては、有価証券について減損処理を行っておりません。

当連結会計年度においては、有価証券について281百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度 (2018年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	624	—	20	20
	ユーロ	1,044	—	8	8
	シンガポールドル	920	—	△35	△35
	買建				
	米ドル	16	—	0	0
	シンガポールドル	53	—	△0	△0
合計		2,658	—	△6	△6

当連結会計年度 (2019年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	315	—	△3	△3
	ユーロ	717	—	1	1
	シンガポールドル	342	—	11	11
	人民元	138	—	△4	△4
	買建				
	米ドル	35	—	△0	△0
	シンガポールドル	0	—	0	0
	人民元	0	—	0	0
合計		1,549	—	4	4

(注) 時価の算定方法

先物為替相場によっております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度 (2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (2019年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	200	92	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しています。確定給付企業年金制度（すべて積立型制度）として、NOK第一企業年金基金制度及びNOK第二企業年金基金制度等並びに退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。

NOK第一企業年金基金制度、NOK第二企業年金基金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給します。退職一時金制度では、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

なお、連結子会社の一部は、退職給付債務の算定に当たり、期末自己都合要支給額等を退職給付債務とする簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	191,604 百万円	199,133 百万円
新規連結に伴う増加額	—	224
勤務費用（従業員拠出額を除く）	8,856	8,912
利息費用	1,288	1,080
数理計算上の差異の発生額	3,669	6,723
退職給付の支払額	△6,474	△8,426
その他	188	△21
退職給付債務の期末残高	199,133	207,626

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	110,399 百万円	117,041 百万円
新規連結に伴う増加額	—	106
期待運用収益	2,642	2,900
数理計算上の差異の発生額	1,615	△794
事業主からの拠出額	6,587	4,665
退職給付の支払額	△4,203	△3,406
その他	—	△11
年金資産の期末残高	117,041	120,502

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	191,838 百万円	199,899 百万円
年金資産	△117,041	△120,502
	74,796	79,396
非積立型制度の退職給付債務	7,295	7,726
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	82,092	87,123
退職給付に係る負債	82,302	87,842
退職給付に係る資産	210	718
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	82,092	87,123

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用（従業員拠出額を除く）	8,856 百万円	8,912 百万円
利息費用	1,288	1,080
期待運用収益	△2,642	△2,900
数理計算上の差異の費用処理額	5,461	5,139
確定給付制度に係る退職給付費用	12,964	12,231

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	△3,407 百万円	2,378 百万円
合計	△3,407	2,378

(6)退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	28,629 百万円	31,007 百万円
合計	28,629	31,007

(7)年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
共同運用資産（一般勘定）	31 %	23 %
債券	29	34
株式	30	32
現金及び預金	1	1
その他	9	10
合 計	100 %	100 %

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産から現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8)数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
①割引率（％）	0.5	0.3
②長期期待運用収益率（％）		
NOK第一企業年金基金制度	2.5	2.5
NOK第二企業年金基金制度	2.5	2.5

3. 確定拠出制度

一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度255百万円、当連結会計年度802百万円であります。

（ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	44百万円	186百万円
繰越欠損金	1,069	2,925
賞与引当金	3,037	2,924
減価償却限度超過額	3,032	7,315
投資有価証券評価損	245	132
退職給付に係る負債	22,996	24,781
未実現利益	1,389	1,556
繰越外国税額控除	612	648
その他	3,263	3,992
繰延税金資産小計	35,692	44,463
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注) 2	—	△1,759
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	—	△5,253
評価性引当額小計 (注) 1	△3,669	△7,013
繰延税金資産合計	32,022	37,450
繰延税金負債		
特別償却準備金	△179	△124
固定資産圧縮積立金	△598	△739
海外関係会社留保利益	△8,609	△8,439
その他有価証券評価差額金	△24,770	△20,379
その他	△925	△1,126
繰延税金負債合計	△35,083	△30,809
繰延税金資産 (負債) の純額	△3,060	△6,640

(注) 1. 評価性引当額の変動の主な内容は、電子部品事業を営む連結子会社における将来減算一時差異等に係る評価性引当額の増加であります。

(注) 2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当連結会計年度 (2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金(※1)	49	12	2	65	89	2,705	2,925
評価性引当額	△43	△10	—	△60	△32	△1,613	△1,759
繰延税金資産	6	1	2	5	56	1,092	(※2) 1,165

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(※2) 税務上の繰越欠損金に係る繰延税金資産は、将来の収益力に基づく課税所得見込みを考慮した結果、回収可能と判断しました。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.5%	30.5%
交際費等永久差異	△0.9	△4.1
住民税等均等割額	0.2	0.6
在外連結子会社の税率差	△3.5	1.7
持分法投資利益	△2.0	△2.9
評価性引当金額	2.1	25.9
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.1	—
その他	△0.5	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.9	52.4

(企業結合等関係)

1. 取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	日東電工（蘇州）有限公司
事業の内容	I T・電子関連材料（フレキシブル回路材料、液晶表示用偏光フィルム電子用テープ類ほか）の製造、開発および輸出を含む販売

② 企業結合を行った主な理由

当社のフレキシブルプリント基板事業において、中国は重要な市場の一つと位置付けています。今回、日東電工株式会社、および日東電工株式会社の子会社である日東電工（中国）投資有限公司から日東電工（蘇州）有限公司の持分を取得することで、市場競争力の強化、および将来のための受け皿づくりに資すると判断し、双方合意に至りました。

③ 企業結合日

2018年5月9日

④ 企業結合日の法的形式

現金を対価とする全出資持分の取得

⑤ 結合後企業の名称

蘇州紫虹電子科技有限公司

⑥ 取得した議決権比率

取得前の議決権比率	0%
取得後の議決権比率	100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の100%子会社である日本メクトロン株式会社が現金を対価として全出資持分を取得したためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2018年5月9日から2019年3月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価（現金）	6,789百万円
取得原価	6,789百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等	12百万円
-------------------	-------

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれんの金額

1,338百万円

② 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものです。

③ 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	3,980百万円
固定資産	1,653
資産合計	5,634
流動負債	183
負債合計	183

(7) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当該影響の概算額の重要性が乏しいため記載を省略しております。なお、当該影響の概算額については、監査証明を受けておりません。

2. 共通支配下の取引等

当社の連結子会社であるメクテックマニュファクチャリングCorp. 蘇州 Ltd. は、2018年7月12日開催の当社の取締役会決議に基づき、2018年10月1日付で、同じく当社の連結子会社である蘇州紫虹電子科技有限公司を吸収合併しております。

(1) 取引の概要

① 結合当事企業の名称及びその事業の内容

(結合企業)

名称 メクテックマニュファクチャリングCorp. 蘇州 Ltd.
事業の内容 フレキシブルプリント基板および関連製品の製造販売

(被結合企業)

名称 蘇州紫虹電子科技有限公司
事業の内容 フレキシブルプリント基板および関連製品の製造販売

② 企業結合日

2018年10月1日

③ 企業結合の法的形式

メクテックマニュファクチャリングCorp. 蘇州 Ltd. (当社の連結子会社) を吸収合併存続会社、蘇州紫虹電子科技有限公司 (当社の連結子会社) を吸収合併消滅会社とする吸収合併

④ 結合後企業の名称

メクテックマニュファクチャリングCorp. 蘇州 Ltd. (当社の連結子会社)

⑤ その他取引の概要に関する事項

当社の100%子会社である日本メクトロン株式会社の子会社である蘇州紫虹電子科技有限公司、および同、メクテックマニュファクチャリングCorp. 蘇州 Ltd. は、いずれもフレキシブルプリント基板を製造販売する子会社(孫会社)です。今般、この2社を合併することで経営の効率化、合理化を図るものであります。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成31年1月16日) 及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日) に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

なお、国内外の一部の工場等で建物及び土地を賃借しており、不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、神奈川県その他の地域において、賃貸用の不動産を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は555百万円であり、当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は578百万円であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	781	826
期中増減額	45	1,178
期末残高	826	2,004
期末時価	7,668	8,565

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

(注2) 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は在外子会社が有している賃貸等不動産の増加額(91百万円)、主な減少額は不動産売却(46百万円)であります。また、当連結会計年度の主な減少額は在外子会社が有している賃貸等不動産の減少額(188百万円)、主な増加額は当社が有している賃貸等不動産の増加額(1,108百万円)であります。

(注3) 当連結会計年度末の時価は、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)または適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品の系列及び市場の類似性を考慮してセグメントを決定しており、各セグメントの統括部門において、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社グループは「シール事業」「電子部品事業」「ロール事業」「その他事業」の4つを報告セグメントとしております。

「シール事業」は、当社が中心となり、主に自動車業界・建設機械業界・一般産業機械業界向けに、シール製品等を生産・販売しております。「電子部品事業」は、日本メクトロン㈱が中心となり、主に電子機器業界向けに電子部品等を生産・販売しております。「ロール事業」は、当社及びシンジーテック㈱が中心となり、主に事務機業界向けに、ロール製品等を生産・販売しております。「その他事業」は、当社及びNOKクリューバー㈱等が中心となり、特殊潤滑剤等を生産・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用した会計処理の原則及び手続と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益の数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	連結 財務諸表 計上額 (注2)
	シール事業	電子部品 事業	ロール事業	その他事業			
売上高							
外部顧客への売上高	336,866	361,101	20,831	10,542	729,341	—	729,341
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,335	17	5	431	2,789	△2,789	—
計	339,201	361,118	20,836	10,974	732,130	△2,789	729,341
セグメント利益又は 損失(△)	40,808	2,963	△49	1,100	44,822	111	44,934
セグメント資産	337,908	267,943	33,636	9,172	648,660	144,653	793,314
その他の項目							
減価償却費	18,881	23,884	1,013	192	43,970	—	43,970
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	32,101	25,004	697	585	58,388	—	58,388

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失の調整額111百万円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額144,653百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産155,316百万円、セグメント間の債権債務の相殺消去△10,663百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	連結 財務諸表 計上額 (注2)
	シール事業	電子部品 事業	ロール事業	その他事業			
売上高							
外部顧客への売上高	341,680	297,374	20,071	10,356	669,482	—	669,482
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,925	47	1	435	2,409	△2,409	—
計	343,605	297,421	20,072	10,792	671,892	△2,409	669,482
セグメント利益又は 損失（△）	36,209	△14,151	△129	1,203	23,132	7	23,140
セグメント資産	376,351	245,376	32,525	10,555	664,809	120,323	785,133
その他の項目							
減価償却費	21,169	24,449	986	235	46,840	—	46,840
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	41,482	28,855	788	331	71,456	—	71,456

（注）1. 調整額は以下のとおりであります。

（1）セグメント利益又は損失の調整額7百万円は、セグメント間取引消去であります。

（2）セグメント資産の調整額120,323百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産131,986百万円、セグメント間の債権債務の相殺消去△11,662百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

【関連情報】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	中国	タイ	その他の地域	合計
239,442	290,966	67,309	131,624	729,341

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	中国	タイ	その他の地域	合計
111,658	65,019	35,277	45,392	257,348

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Apple Inc.	146,720	電子部品事業

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	中国	タイ	その他の地域	合計
242,944	240,786	70,984	114,768	669,482

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、「その他の地域」に含めていた「タイ」における売上高は、当連結会計年度より連結損益計算書の売上高の10%を超えたため、独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度において、「その他の地域」に表示していた198,933百万円を、「タイ」67,309百万円、「その他の地域」131,624百万円として組み替えております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	タイ	その他の地域	合計
112,954	64,153	33,145	52,242	262,496

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Apple Inc.	99,752	電子部品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

報告セグメントごとの固定資産の減損損失の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

(単位：百万円)

	シール事業	電子部品事業	ロール事業	その他事業	全社・消去	合計
減損損失	—	14,634	115	—	—	14,749

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

（単位：百万円）

	シール事業	電子部品事業	ロール事業	その他事業	全社・消去	合計
当期償却額	69	205	—	—	—	274
当期末残高	51	1,034	—	—	—	1,086

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	正和地所(株)	東京都港区	80	不動産賃貸業	被所有直接 5.1%	建物等の賃借	建物等の賃借	547	—	—

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	正和地所(株)	東京都港区	80	不動産賃貸業	被所有直接 5.1%	建物等の賃貸借	建物等の賃借	102	—	—

（注） 1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

正和地所(株)との賃借については、市場の実勢価格等を勘案の上、決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	2,657.85円	2,567.92円
1株当たり当期純利益	204.17円	19.77円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式を「1株当たり純資産額」の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております（前連結会計年度29千株、当連結会計年度一千株）。
3. 従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式を「1株当たり当期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（前連結会計年度160千株、当連結会計年度3千株）。
4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
純資産の部の合計額（百万円）	499,894	485,498
純資産の部の合計額から控除する金額（百万円）	40,238	41,321
（うち非支配株主持分）	(40,238)	(41,321)
普通株式に係る期末の純資産額（百万円）	459,655	444,177
期末株式数（千株）	172,942	172,971

5. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	35,281	3,419
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	35,281	3,419
期中平均株式数（千株）	172,806	172,968

6. 「期末株式数」及び「期中平均株式数」は、従業員持株E S O P信託口が所有する連結財務諸表提出会社株式を控除しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	52,530	60,962	2.64%	—
1年以内に返済予定の長期借入金	5,868	6,009	2.02%	—
1年以内に返済予定のリース債務	147	67	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	9,931	19,563	2.02%	2020～2026年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	170	169	—	2020～2026年
その他有利子負債（注）1	16,210	16,226	4.47%	—
合計	84,858	103,000	—	—

（注）1. 従業員預り金であります。

2. 平均利率の算出については、期末の利率及び残高を使用しております。

3. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

4. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	4,814	4,500	4,491	4,222
リース債務	67	48	32	12

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高（百万円）	163,657	342,029	521,964	669,482
税金等調整前四半期（当期）純利益（百万円）	6,766	16,189	29,279	12,909
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益（百万円）	3,860	9,650	18,903	3,419
1株当たり四半期（当期）純利益（円）	22.32	55.79	109.29	19.77

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失（△）（円）	22.32	33.47	53.50	△89.52

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,849	30,248
受取手形	※1 23,236	※1 23,035
売掛金	50,530	49,535
製品	8,776	10,238
仕掛品	664	659
原材料及び貯蔵品	1,884	2,382
短期貸付金	4,547	10,682
未収入金	9,509	8,719
その他	1,894	2,188
貸倒引当金	△32	—
流動資産合計	138,860	137,690
固定資産		
有形固定資産		
建物	18,533	21,878
構築物	1,843	2,391
機械及び装置	24,274	27,581
車両運搬具	241	259
工具、器具及び備品	5,721	5,981
土地	5,592	6,193
リース資産	68	70
建設仮勘定	4,476	13,648
有形固定資産合計	60,753	78,005
無形固定資産	54	48
投資その他の資産		
投資有価証券	108,530	95,747
関係会社株式	40,639	40,690
関係会社出資金	11,396	11,396
長期貸付金	5,279	4,729
前払年金費用	1,086	701
差入保証金	1,508	801
その他	1,476	1,406
投資損失引当金	△362	—
貸倒引当金	△99	△100
投資その他の資産合計	169,457	155,372
固定資産合計	230,265	233,426
資産合計	369,125	371,116

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	25,890	23,723
短期借入金	14,022	14,797
未払金	5,355	8,940
未払法人税等	2,058	1,256
未払費用	1,679	1,787
CMS預り金	28,676	24,070
賞与引当金	4,042	4,189
債務保証損失引当金	668	—
従業員預り金	11,857	12,273
その他	8,926	7,776
流動負債合計	103,177	98,816
固定負債		
長期借入金	2,451	8,423
退職給付引当金	29,164	31,062
繰延税金負債	12,249	7,754
その他	1,697	1,718
固定負債合計	45,561	48,959
負債合計	148,739	147,775
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,335	23,335
資本剰余金		
資本準備金	20,397	20,397
資本剰余金合計	20,397	20,397
利益剰余金		
利益準備金	2,983	2,983
その他利益剰余金		
特別償却準備金	59	62
固定資産圧縮積立金	1,595	2,042
繰越利益剰余金	114,958	127,106
利益剰余金合計	119,597	132,196
自己株式	△246	△148
株主資本合計	163,084	175,780
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57,301	47,559
評価・換算差額等合計	57,301	47,559
純資産合計	220,385	223,340
負債純資産合計	369,125	371,116

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	254,010	256,203
売上原価	199,365	201,693
売上総利益	54,645	54,509
販売費及び一般管理費	※1 34,839	※1 36,252
営業利益	19,805	18,257
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	12,481	9,182
受取賃貸料	857	828
その他	922	1,254
営業外収益合計	14,261	11,264
営業外費用		
支払利息	797	811
その他	53	243
営業外費用合計	850	1,055
経常利益	33,216	28,466
特別利益		
固定資産売却益	※2 205	※2 16
投資有価証券売却益	161	32
投資損失引当金戻入額	208	—
その他	36	—
特別利益合計	611	48
特別損失		
固定資産除売却損	※3 305	※3 411
投資有価証券評価損	—	233
債務保証損失引当金繰入額	268	—
その他	1	38
特別損失合計	574	683
税引前当期純利益	33,252	27,831
法人税、住民税及び事業税	7,035	6,962
法人税等調整額	73	△382
法人税等合計	7,108	6,579
当期純利益	26,144	21,251

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	23,335	20,397	20,397	2,983	35	1,149	97,937	102,106
当期変動額								
剰余金の配当							△8,652	△8,652
特別償却準備金の積立					35		△35	—
特別償却準備金の取崩					△10		10	—
固定資産圧縮積立金の積立						445	△445	—
当期純利益							26,144	26,144
自己株式の取得								
自己株式の処分								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	—	—	—	—	24	445	17,021	17,491
当期末残高	23,335	20,397	20,397	2,983	59	1,595	114,958	119,597

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△1,089	144,749	47,424	47,424	192,174
当期変動額					
剰余金の配当		△8,652			△8,652
特別償却準備金の積立		—			—
特別償却準備金の取崩		—			—
固定資産圧縮積立金の積立		—			—
当期純利益		26,144			26,144
自己株式の取得	△0	△0			△0
自己株式の処分	843	843			843
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			9,876	9,876	9,876
当期変動額合計	843	18,334	9,876	9,876	28,210
当期末残高	△246	163,084	57,301	57,301	220,385

当事業年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		
					特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金 合計
当期首残高	23,335	20,397	20,397	2,983	59	1,595	114,958
当期変動額							
剰余金の配当							△8,652
特別償却準備金の積立					18		△18
特別償却準備金の取崩					△15		15
固定資産圧縮積立金の積立						447	△447
当期純利益							21,251
自己株式の取得							
自己株式の処分							
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）							
当期変動額合計	－	－	－	－	3	447	12,148
当期末残高	23,335	20,397	20,397	2,983	62	2,042	127,106

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	△246	163,084	57,301	57,301	220,385
当期変動額					
剰余金の配当		△8,652			△8,652
特別償却準備金の積立		－			－
特別償却準備金の取崩		－			－
固定資産圧縮積立金の積立		－			－
当期純利益		21,251			21,251
自己株式の取得	△0	△0			△0
自己株式の処分	98	98			98
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）			△9,741	△9,741	△9,741
当期変動額合計	97	12,696	△9,741	△9,741	2,954
当期末残高	△148	175,780	47,559	47,559	223,340

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券及び出資金

① 子会社・関連会社株式及び出資金

移動平均法による原価法によっております。

② その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

(2) デリバティブ

時価法によっております。

(3) たな卸資産

① 製品及び仕掛品

売価還元法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。

② 原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 5～50年

機械及び装置 4～9年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等については個別に債権の回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支払いに備えるため、支給見込額基準により計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に充てるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれの発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

(3) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」1,851百万円は、「固定負債」の「繰延税金負債」14,100百万円と相殺して、「固定負債」の「繰延税金負債」12,249百万円として表示しており、変更前と比べて総資産が1,851百万円減少しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第4項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(1)(評価性引当額の合計額を除く。)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	22,695百万円	27,726百万円
長期金銭債権	2,426	2,174
短期金銭債務	49,630	44,033
長期金銭債務	17	18

2. 関係会社に対する保証債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
メクテックマニュファクチャリング Corp. 珠海Ltd. (外貨額)	17,718百万円 (166,764千US\$)	11,025百万円 (99,328千US\$)
シンジーテックプレジジョンパーツ深セン Co. Ltd. (外貨額)	一百万円 (一千US\$)	222百万円 (2,000千US\$)

3. ※1 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	1,693百万円	1,551百万円

(損益計算書関係)

1. ※1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度41%、当事業年度40%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度59%、当事業年度60%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
運賃	7,411百万円	7,726百万円
給料及び手当	7,958	8,100
賞与引当金繰入額	1,314	1,302
退職給付費用	1,930	1,841
研究開発費	6,350	7,501
減価償却費	385	382

2. ※2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	91百万円	建物	11百万円
土地	99	車両運搬具	4
その他	14	その他	0
計	205	計	16

3. ※3 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。

これは設備の更新・合理化等に伴う廃棄損失等であります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	189百万円	建物	223百万円
機械及び装置	53	機械及び装置	118
土地	41	構築物	58
その他	20	その他	12
計	305	計	411

4. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	37,559百万円	37,124百万円
仕入高	172,201	174,547
営業取引以外の取引による取引高	75,581	73,401

(有価証券関係)
子会社株式及び関連会社株式
前事業年度 (2018年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
関連会社株式	4,511	26,549	22,037

当事業年度 (2019年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
関連会社株式	4,511	17,201	12,689

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額
(単位: 百万円)

区分	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
子会社株式	30,816	31,240
関連会社株式	5,311	4,938

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	39百万円	30百万円
未払事業税等	288	257
賞与引当金	1,220	1,265
減価償却限度超過額	1,444	1,342
投資有価証券評価損	1,505	1,559
投資損失引当金	109	—
退職給付引当金	8,479	9,169
債務保証損失引当金	201	—
その他	684	727
繰延税金資産小計	13,975	14,351
評価性引当額	△ 1,571	△ 1,420
繰延税金資産合計	12,404	12,931
繰延税金負債		
特別償却準備金	△ 25	△ 27
固定資産圧縮積立金	△ 463	△ 606
その他有価証券評価差額金	△24,163	△20,051
その他	△ 0	△ 0
繰延税金負債合計	△24,653	△20,685
繰延税金負債の純額	△12,249	△ 7,754

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.2%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	1.1
受取配当等永久に益金に算入されない項目	△9.0	△6.9
住民税等均等割額	0.2	0.2
税額控除	△2.7	△2.2
外国源泉税	1.7	1.9
評価性引当額	0.2	△0.5
その他	0.1	△0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.4	23.6

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】
【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	18,533	4,717	99	1,273	21,878	27,520
	構築物	1,843	758	16	195	2,391	3,775
	機械及び装置	24,274	8,433	106	5,021	27,581	75,624
	車両運搬具	241	103	0	84	259	573
	工具、器具及び備品	5,721	4,324	66	3,997	5,981	21,346
	土地	5,592	600	—	—	6,193	—
	リース資産	68	21	—	19	70	65
	建設仮勘定	4,476	41,195	32,022	—	13,648	—
	計	60,753	60,155	32,311	10,592	78,005	128,906
無形固定資産	借地権	—	—	—	—	6	—
	その他	—	—	—	3	42	—
	計	—	—	—	3	48	—

(注) 1. 当期中の主な増加額の内訳

機械及び装置	ゴム加工機械	6,037百万円
建物	工場棟	4,329百万円
工具、器具及び備品	型・治工具	3,507百万円

2. 建設仮勘定の当期増加額は上記各資産科目の取得に伴う増加であり、当期減少額は振替によるものであります。
3. 無形固定資産の金額は資産の総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	131	1	32	100
投資損失引当金	362	—	362	—
賞与引当金	4,042	4,189	4,042	4,189
債務保証損失引当金	668	—	668	—

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.nok.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間において、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第112期）（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）2018年6月27日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月27日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第113期第1四半期）（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）2018年8月10日関東財務局長に提出。

（第113期第2四半期）（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）2018年11月14日関東財務局長に提出。

（第113期第3四半期）（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）2019年2月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2018年6月29日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

2018年7月18日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月26日

NOK株式会社

取締役会 御中

監 査 法 人 日 本 橋 事 務 所

指 定 社 員 公 認 会 計 士 千 葉 茂 寛 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 吉 岡 智 浩 印
業 務 執 行 社 員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているNOK株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、NOK株式会社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、NOK株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、NOK株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月26日

NOK株式会社

取締役会 御中

監 査 法 人 日 本 橋 事 務 所

指 定 社 員 公 認 会 計 士 千 葉 茂 寛 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 吉 岡 智 浩 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているNOK株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第113期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、NOK株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。